

相国寺御用達

京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。

大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に作りおりました。

大切な方への心を込めた贈り物に、

京名菓 雲龍をどうぞ...



京菓子司
俵屋吉富

本店

京都市上京区室町通上立売上ル
電話 (075) 432-2211

烏丸店 京都市上京区烏丸通上立売上ル
電話 (075) 432-3101

圓明

平成二十九年 夏号(第一〇八号)

大本山相国寺
相国会本部

暑中お見舞い申し上げます

平成二十九年 盛夏

◆表紙写真

開山堂 青もみじの「龍淵水の庭」

開山堂前庭には、白砂敷き枯山水と苔地築山の間に水路跡がある。ここには昭和初年まで水が流れていた。「龍淵水の庭」とも呼ばれ、この小川はそのまま京都御所に入り御用水とされた。

撮影◎教学部



まるにくん
© 2017 相国寺



臨濟禪師二五〇年・白隠禪師二五〇年遠諱記念 「禅林美術展」開催中

平成二十九年六月十五日(木)～十二月三日(日) 会期中無休
現在承天閣美術館にて開催中の「禅林美術展」で展観される作品のうち、いくつかを巻頭カラーにてご紹介します。



古林清茂墨蹟 佳況 鹿苑寺蔵



釘彫伊羅保茶碗
宇和島藩主伊達宗城所持 鹿苑寺蔵



徳川幕府朱印状櫃(籠) 相国寺蔵
「徳川幕府が発給する朱印状を運んだ」

重要文化財

拙庵徳光墨蹟

金渡の墨蹟

南宋時代
鹿苑寺蔵

拙庵徳光（一一二一～一二〇三）は南宋の禅僧。大慧宗杲に参じ、その法を嗣ぐ。

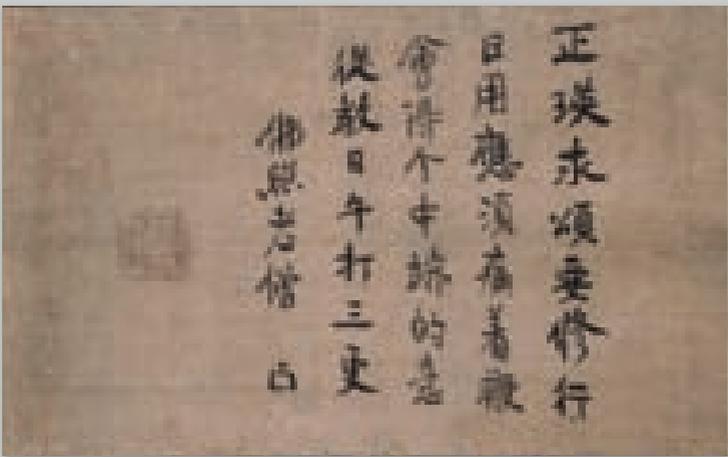
正瑛求頌要修行 正瑛、頌を求む、修行を要せんとは
日用應須痛着鞭 日用應に須らく痛く鞭を着くべし
會得个中端的意 个の中に端的の意を會得す
従教日午打三更 従教 日午三更を打すること

佛照老僧（花押）

本墨蹟は、正瑛という人物が、頌を求めてきたのに対し、拙庵徳光が、修行の要を説いたもの。

この墨蹟は、『平家物語』巻第三にも登場する古来より珍重された墨蹟。平清盛の嫡男、平重盛が一族の後世を弔う為に、中国・宋に三千両を贈った際、受け取り手となった径山の拙庵徳光より返ってきた墨蹟。その後、足利義満、義政、細川持賢等を経て、細川家の菩提寺摂津国崇禅寺に伝わった。

さらに江戸時代になると將軍徳川秀忠から、細川忠興へ渡り肥後細川家に受け継がれた。そして三代藩主綱利の時代に再び徳川家へ献納され、柳営御物として愛蔵されてきた。請来の経緯、伝来の過程が詳細に判明している、極めて貴重な作品である。



重要美術品

春屋妙葩頂相

自賛

南北朝時代 鹿苑寺蔵

春屋妙葩（二三一一～八八）は、足利義満の深い帰依を受け、義満を開基とし、相国寺を創建（二世・実質開山）した。この頂相の上部には春屋が自ら賛を著している。

渠非我 渠は我に非ず
我似渠 我は渠に似たり
真面目状難如 真面目の状如難し
春屋叟

『智覚普明国師語録』巻第五にも同文が所収される。

この内容は、洞山良价の「洞山過水偈」に拠る。

また、像の左下に小さな字で相国寺七二世維馨梵桂が、文明十四年（一四八二）に本作を奉安した旨の書入れを残す。



三祖師図

臨濟(右幅)

達磨(中幅)

雲門(左幅)

白隠慧鶴画賛

江戸時代 鹿苑寺蔵

白隠慧鶴(一六八五―一七六八)は、中年期以降、原の松蔭寺に住し臨濟宗中興の祖と称された。白隠は、多くの著書と共に膨大な書画を残す。その多くが六〇歳以後の作品で、技巧にとられない作風から、池大雅・曾我蕭白や長沢蘆雪に影響を与えた。

本図は、中幅に達磨、左右に雲門・臨濟を描き各幅上部にそれぞれ「性」「喫」「喝」の一字が大書されている。達磨図に描かれている履は、示寂したはずの達磨が片方だけの履を持ち宋雲という僧侶の前に現れ、インドに帰ると告げたという「隻履達磨」の説話に基づく。





本誌『円明』のバックナンバーについて、平成20年夏発行の第90号以降は、相国寺派ホームページ内でご覧いただくことが出来ます。

目次

宝物拝見 臨濟禪師二五〇年・白隠禪師二五〇年遠諱記念「禅林美術展」開催中 1

「拙庵徳光墨蹟 金渡の墨蹟」「春屋妙葩頂相 自賛」「三祖師図 白隠慧鶴画賛」 1

御挨拶 8

仏道定款 12

特別寄稿「テララワダの風」〈前編〉 16

白隠禪師二五〇年遠諱記念 特別寄稿

白隠墨蹟二五〇〇点 墨蹟大調査と図録発刊を通じて 24

白隠禪師二五〇年大遠諱接心会に刺激受け 第六教区 光明寺 坐禅会員 上野敏孝 37

白隠禪師二五〇年大遠諱接心会に参加して 第六教区 光明寺 坐禅会員 尾辻博志 39

慈照院宸殿解体修理・付大玄関(式台渡り)廊下屋根葺替工事報告 慈照院住職 久山隆昭 41

相国寺の庭園(第二回)放生池の花蓮 植昭 長岡造園 長岡秀晃 45

昭和を偲ぶ 演劇塾 長田学舎 齊藤維明 50

本山だより 57

坐禅会のご案内 73

教区だより 76

教化活動委員会活動報告 87

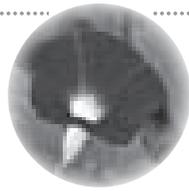
相国寺史編纂室だより 91

相国寺 秋の特別拝観 104

承天閣だより 春季特別展覧会 熊本地震復興祈念 105

「円山応挙―京都相国寺と金閣の名宝展ふたたび―」展開催 106

臨濟禪師二五〇年・白隠禪師二五〇年遠諱記念「禅林美術展」開催 カラーグラフィア◎第三教区 少林寺 堂宇落慶法要 心のすがた 108



相国会総裁 有馬頼底

副総裁 佐分宗順

会長 片岡匡三

本部長 矢野謙堂

内局 (平成二十九年五月一日発定)

管 承天閣美術館名誉館長 有馬頼底

宗 庶務部総長 豊光寺住職 佐分宗順

教 学 部 長 大光明寺住職 矢野謙堂

財 務 部 長 普廣院住職 山木雅晶

法 務 部 長 眞如寺住職 江上正道

教 学 ・ 庶 務 部 員 眞如寺住職 江上正道

財 務 ・ 庶 務 部 員 豊光寺副住職 佐分昭文

承天閣美術館館長 養源院住職 平塚景堂

同 事務局長 長栄寺住職 鈴木景雲

同 参事 養源院副住職 平塚景山

同 鹿苑寺執事長 林光院住職 澤宗泰

同 執事 是心寺住職 和田賢明

慈照寺執事長 桂徳院住職 小出量堂

同 執事 慈照院副住職 久山哲永

宗議会議員 (平成二十九年二月一日任命)

第一教区 慈照院住職 久山隆昭

第二教区 竹林寺住職 牛江宗道

第三教区 見性寺住職 梶谷承忍

第四教区 善應寺住職 五十嵐祖傳

第五教区 眞乘寺住職 木下雅教

第六教区 本誓寺住職 延本輝典

第六教区 感應寺閑栖 芝原一三

宗務支所正副長 (平成二十九年二月一日任命)

第一教区 林光院住職(正) 澤宗泰

大光明寺住職(副) 矢野謙堂

第二教区 竹林寺住職(正) 牛江宗道

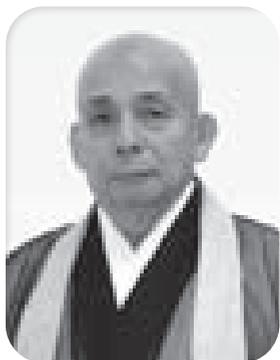
第三教区 相国寺派 庶務部長兼任 木下雅教

第四教区 眞乘寺住職(正) 田中太真

第五教区 圓福寺住職(副) 延本輝典

第六教区 本誓寺住職(正) 芝原一三

御挨拶



宗務総長 佐分宗順

本派寺院、相国会、檀信徒の皆様、暑中お見舞い申し上げます。

本年三月をもって宗務総長としての任期を無事終えることができました。任期中の三年間、臨済宗黄檗宗連合各派合議所の理事長として、また臨済宗連合各派布教団本部理事長としての役目も同時に勤め上げることができ、最大の行事であった臨済禅師一一五〇年、白隠禅師二五〇年の遠諱事業の理事本山として、現場に立ち会うことができたことは幸運であり多くのことを学ばせていただきました。

一方本山相国寺に於いては、本山、鹿苑寺、慈照寺三山の統合決算を実現することで、三山の運営状態を全体として見通すことができる、健全な財務処理の基礎固めの端緒を開くことができました。また三山の就業規則を見直し、現代社会の情勢に応じた就業規則を整備することで、連携のとれた宗務行政が期待できるようになりました。私を支えてくださった事務局はじめ多くの方々へ感謝申し上げます。そして昨年三月の宗議会において宗務総長として再任され、さらなる改革の機会を与えていただいたことに感謝いたします。この一期で前任期間中、公約しながら実現に至らなかった相国寺諸規則の改正は今期最重要課題として、実現に向け真剣に取り組んでまいります。

また末寺寺院の無住化、兼務寺院の増加対策として、寺院の統廃合の問題も引き続き検討してまいる所存です。近年、地域の過疎化、

檀信徒の減少、現代社会に暮らす人間の生活構造や価値観の変化によって、檀家制度そのものが崩壊しつつあると論じられており、檀家制度だけに頼って存続し続けることは難しいという事でしょう。

檀家制度に頼らないもう一つの道として、鹿苑寺や慈照寺のように参拝客を受け入れて存続し発展させてきた観光寺院としての道筋があります。明治以来一〇〇年の過程で多くの参拝者を受け入れ世界にその存在を認知されるまでになりました。古都税問題で観光寺院が寺の矜持をかけて戦ったのは、それが観光寺院を支えてきた基盤であり、この道筋を壊されることに対する抵抗でありました。ただ、この道もこれからの世界の変化を見つめながら寺院としての在り方を考え続けねばなりません。思考停止は停滞、崩壊につながります。

本年度は相国寺史の資料集発刊に向け進んでおり、その研究成果を研修会において皆様に公開してまいります。特に、今まで顧みられなかった宗門の近現代史は、相国寺が先陣を切る覚悟で解明に取り組んで参ります。江戸、明治、大正、昭和、戦前、戦後の寺院の在り方は経済的にも、構造的にも大きな変革を繰り返してきました。その道筋をたどり、その時々 of 担い手がどのように考え、どのような方針のもとに運営に携わってきたのかを究明することで、現在のわれわれの寺院のあり方が明らかになると考えています。歴史と現状の分析によってこれからの寺院の在り方を考えるという意味で、相国寺史編纂室の仕事は重要な役割を担っています。この成果を、これからの寺院無住化や兼務寺院対策に生かす道にと考えます。

本年も相国寺本山の充実と、相国寺派寺院の発展のため皆様と一緒に知恵を絞って進んでまいりたいと思います。これからの一、二年間皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

ぶつ どう てい かん 仙道定款

大通院

相国寺専門道場師家

小林玄徳

仙道定款

—YOUR GUIDE FOR
DEATH EDUCATION—

第六条 日曜日の虎ノ門

日曜日の虎ノ門、
大都会のオアシス。

日曜日の虎ノ門、
人気のない無人島。

日曜日の虎ノ門、
誰も渡らない横断歩道。

日曜日の虎ノ門、
ビルの谷間の静けさよ。

日曜日の虎ノ門、
ポンコツ一軒家の侘しさよ。

日曜日の虎ノ門、
雑鬧と閑静の和む街。

日曜日の虎ノ門、
密かに参敬。金刀比羅宮と愛宕神社。

日曜日の虎ノ門、
先に行くカップルの眩しい清らかさ。

日曜日の虎ノ門、
心の寂しさ進む虎ノ門。

日曜日の虎ノ門、
現代人の心を溶かすオアシスよ。



虎ノ門の交差点。南東角で
獅子吼する虎像



虎ノ門の交差点。右の茶色の建物が
旧文部科学省。中央のビルが、昔
日本一高かった霞ヶ関ビル



こんなしっとりした愛宕神社が、あるなんて…



先に行くカップルの目的は金刀比羅宮(縁結)で結婚成就祈願
であったとは!

「禅語」『動中の工夫、静中に勝ること百千億倍』

白隠禅師の法語であるが、本年平成廿九年は、禅師二百五十年の大遠諱だいおんぎの正當しょうとうに当る。

第六条は『動中静、静中動』の禅語を簡単な詩にして、公案となしてみた訳である。久参底の居士ならば趙州和尚の「至道無難、唯嫌ゆいけん揀擇けんじやく」が浮かぶことでしょう。〈最高の仏道とは、実にた易いものでござる。唯好き嫌いの選り好みさえしなければよろしいのである。〉従って、動にも執着せず、静にも執着せず、縁に随ってコロコロと転がって行くだけの境地こそ、何の難しいことなどない処。

先日虎ノ門で法話会があり、早朝より虎ノ門界限かいわいを経行きんぎん(散歩)しながら胸中に浮んだ感動の詞ことばを書き止めてみたものである。中央官庁の密集する霞ヶ関、赤坂、虎ノ門と隣接する。平日の通勤電車の騒然とした雑踏の中、俯うつむいた顔には憂いと無表情・無感動の顔顔顔。ロボットの如く足早にオフィスへと向う孤独な群集・衆生が、『動中静、静中動』『壮絶中の閑坐』なる禅の教えに出合い、気付き、発見し

て『動中静』が素晴らしい感動で満ち充ちていることを、この日曜日ひの虎ノ門の一編の詩との邂逅かいこうによって会得して頂きたいと願うところである。

大都会の壮絶な動中の真唯中まっただなかで、こんなにも、心の豊かさに一層の潤いを与えてもらえる別世界があることに眼まなこを開いてもらえれば、偏ひとえに坐禅会場で坐禅することだけが、修行の場ではないことに合点してもらえらることと思う。

『動中の工夫、静中に勝ること百千億倍』と白隠禅師が示された教えの真底も自ら明瞭めいりょうの事と存じます。そして『動中静』を合点した後に『動中静』が生き生きとして用もちき出して来る訳であります。



特別
寄稿

テーラワフーダの風〈前編〉

第四教区 潮音院住職 鈴木元浩



雲水衣

アピワータナシーリツサ ニツジャン
ウッターパジャイノー ジャダーロー
タムマー ワツタンデイ アユワンノー
スカン パラン

(常に礼節をわきまえ、年長者や栄えある者を敬う人には、四つの法が増大する。
それは、長寿と美しさと幸福と力である。)

『随喜発勤偈』

この二月二十一日から一週間、花園大学の佐々木閑教授と共にタイへ行って参りました。簡単にタイという国を説明しますと、飛行機を降りて目につくのがまず国王の大きな写真。そして次に見かけるのがお坊さんの写真です。コンビニに入ると、書籍のコーナーには普通にいろんなお坊さんの本が置かれており、ブロマイドまで売られています。日本ではまず考えられませんね。それほど仏教が身近にあり、信仰の



タモ寺の庭

篤い国なのです。場所は北部のチェンマイから車で約二時間南下した村にある、プラ・プツ
タバート・タモ(以下タモ寺と略す)というお寺です。近くの集落の民族はカレン族といい、
ミャンマーからタイ北部にわたって古来より生活しています。ここには日本人の落合尊
師という方がおられ、尊師はタイで出家
されたのち、このタモ寺で生活されていま
す。佐々木先生は私の学生時代からの恩
師であり、今回の旅は、落合尊師と先生の
ご関係でご縁をいただいて実現したもの
でした。タモ寺は密林派にあたる宗派で、
名前のごとく森の中にあります。どのぐ
らい密林かというと、半径3kmは集落が
ありません。サソリは出るわコブラは出
るわで、足元を注意して歩かないと大変
な目にあうようなところですよ。山全体が
お寺の敷地になっており、お坊さんが生活
している場所と、一般のお客さんが滞在
できる場所に分かれています。もちろん
危険ばかりではなく、とてもどこかで美し



落合尊師と佐々木先生



白いお堂

い所です。一番象徴的な建物は、白い
お堂です。実はタモ寺の訪問は二回目
で、二年前に一度同じように先生に随
行しています。なぜ再度ともいいます
と、ここでは是非叶えてみたいことが
あったからです。それは、日本とタイ
の仏教の違いが関係しています。

仏教は大きく分かれて二つの流れ
があります。最初の場所は言わずも
がな、インドですね。シャカ族の王子
であったゴータマ・シッダルタが出家
し、人生の苦しみから解放するための
真理を説かれたのが始まりです。その
教えはまず南に広がっていきました。
現在のスリランカ、ミャンマー、タイ、
ラオス、カンボジアなどです。(南伝仏
教)その後、シルクロードが開通し、文
化と共に北にも広まっていきました。

(北伝仏教)ブータン、ネパール、中国、日本という具合に。この二種類の流れには大きな違いがあります。

まず北伝について、ラーメンで例えてみましょう。(私が好きなものではない)ラーメンには様々な種類がありますね。醤油、味噌、トンコツ、塩、そして最近ではつけ麺など。これらは種類が違えどもラーメンには違いありませんね。なぜこんなに種類があるのかというと、それぞれの味を開発した人が、その味を極め、広めたからです。このように、北伝仏教も様々な種類があります。密教を信仰するもの、阿弥陀を信仰するもの、法華経を信仰するもの、我々禅宗では、坐禅をして内なる仏性を磨いていくという教えなどです。同じ仏教なのに、それぞれ教えは全然違います。これは北に仏教が広まる上で様々な文化が融合し、時代や世情も相まって、このような結果となったのです。この北伝仏教を一般的に大乘仏教と呼びます。やがて日本に伝来するのですが、日本には一つ重要な事柄が伝わらなかったのです。それはのちほど。

次に南伝について説明します。またラーメンの話に戻りますが、南伝は醤油ラーメンを大切にしています。(私は醤油が好きなのでいいませんが)その伝統ある醤油にあたるものとは何か、それは「律」といわれるサンガ内での規則です。サンガとは僧団のことをいいます。仏教には、経(シヤカの説いたことば)、律(サンガでの規則)、論(教義を検討した論書)の三蔵といわれる聖典があります。いわば仏教の骨子です。シヤカは仏教を未来永劫伝えていくためにはどうすればよいか考えました。そこでサンガを組織化し、骨子の一つであ

る律を用いることによって、円滑に出家生活を送ることができると思いつきました。律によってサンガを統制していけば、シヤカが亡くなったあとでも仏教は廃れないと考えたのです。律の内容は、例えば人を殺してはいけないという当たり前のことから、托鉢でいただいた食事は午前中のみで、午後からは口にすることはできないとか、新月と満月の月二回、布薩堂(大事な儀式を行うお堂)で反省会をしなければならぬなどの、大小様々な出家生活規則です。つまりシヤカが説いた律を二千五百年間守り続け、最終的に阿羅漢となることを目的としている伝統的仏教が、南伝仏教なのです。別名、上座部仏教といわれ、上座部とは長老が上座で法を説くという意味です。あちらの言葉ではテーラワーダといいます。



布薩堂で儀式中



比丘と共に

以上、北と南の違いを簡単に説明しましたが、先ほどの重要な事柄というのは、なんと日本にはこの律が伝わっていないということです。なぜかというところ、日本にとつての仏教は国家形成のためのツールとして導入された新思想だったからです。だから当時のお坊さんたちにはサンガを形成し、律を守って生活することは不必要で、国家公務員のような存在でいてほしかったのです。ちなみに古代奈良仏教には律宗という派があるのですが、これは大学という学部みたいなもので、律を学ぶための機関にすぎません。唐招提寺は、授戒のために鑑真が持ち込んだ律を祀るためのお寺です。

この律によるタイと日本の違いこそが、今回の旅の大きなテーマでした。

テーラワータでは律を守っていない日本のお坊さんは、お坊さんではないとなるわけです。もちろんタモ寺でもこの律を遵守しています。よって私は一回目の旅では在家として扱われました。お坊さんの住居をクティといい、さきほどいったように在家が使う居住地よりも離れた場所で寝起きしています。それから朝課、夕課もお坊さんと在家の座る場所が分けられており、読むお経の部分も多少違います。托鉢では近くの集落に毎朝食物をもらいに行くのですが、お坊さんは鉄でできた大きな鉢に食物などの施しを受けます。これらのことすべて、在家として行動しなければなりません。特に衝撃的だったのは、托鉢でのことでした。私はその時作務衣姿だったのですが、鉢はもちろん持たせてもらえず、お坊さんの鉢がいっぱいになったら、運びきれない食物を入れるための頭陀袋を持たされました。私も少しは村人から施しをいただけるものかと期待していたのですが、村人からはただ不思議そうな目で見られ、完全にスルーされました。村人からも相手にされない日本のお坊さん。お坊さんとして生まれてきた私が、同じ仏教国であるタイで通用しないという現実。私の存在意義を否定されるような出来事です。それが悔しくて、この時に味わった情けない思いをずっと持ち続けていました。私の叶えたい願いとは、この二回目の訪問で、本気で日本の僧侶として認めてもらいたいこととなったのです。

次回はどのようにして生活したのか、そして私の願いは届いたのかをお伝えいたします。

白隠禅師二五〇年遠諱記念 特別寄稿

白隠墨蹟二五〇〇点〈墨蹟大調査と図録発刊を通じて〉

眞如寺住職・花園大学国際禅学研究所元研究員 江上正道

はじめに

本年は、白隠慧鶴禅師がお亡くなりになって二五〇年遠諱の節目の年である。本誌読者諸氏の中には、菩提寺での法要や坐禅会などで「白隠禅師坐禅和讃」を唱和し、また住職等から白隠についての話を聞かれた方もあるだろう。

白隠慧鶴（貞享二年（一六八五）―明和五年（一七六八））は、駿河国の東海道の宿駅である「原の宿」にお生まれになった方で、八十四年のその生涯で、数多くの書物、仮名法語、墨蹟等を残され、門前の子ども達から大名に至るまでに多くの教えを説いた大和尚であることは、よく知られている。

しかし、名前は有名であるのに、禅師の生涯とその説いた内容については、これまで宗門をはじめ研究分野でも詳らかにされてこなかった。私は平成十八年（二〇〇六）から、白隠禅師の墨蹟調査をはじめとする白隠学に深く携わるといふご縁を頂戴した。本年五月に我が宗門大学の花園大学で開催された「白隠禅師シンポジウム」において、「白隠禅を現代にどう生かすか」というテーマで、過去の調査をまとめる形で発表をさせていただいたので、ここに誌面を借りてレポートさせていただく。



「白隠禅師シンポジウム」で発表する筆者 写真撮影：臨黄合議所遠諱局

白隠墨蹟大調査

「臨濟宗・黄檗宗ご寺院各位」「白隠禪師墨蹟集成の刊行と資料調査についてのお願い」というタイトルで、全国の寺院に花園大学国際禅学研究所から依頼状が発送されたのは、今から十年以上前の平成十八年(二〇〇六)四月末のことである。ここに芳澤勝弘国際禅学研究所教授(現顧問)を筆頭とする「白隠禪師墨蹟調査一大プロジェクト」が本格的に始動した。最終的な目標は、平成の『白隠墨蹟集』を新たに発刊することであった。それまでも芳澤氏は、禅文化研究所において多数の禅宗関係書物の発刊や季刊誌の編集などを手掛け、さらに全十五冊におよぶ『白隠禪師法語全集』の訳注・刊行をはじめとして多くの白隠の著作についても独自に調査解読を積み重ねてこられた。

それまでの白隠についての世間一般の評価をまとめると、そもそも大規模な白隠墨蹟研究が未だなされていないという点、体系的で学問的な『白隠墨蹟集』と言えるのは、昭和三十九年(一九六四)に筑摩書房から刊行された竹内尚次編『白隠』に収録されたモノクロ五五六点の墨蹟のみという点、この墨蹟集『白隠』も残念ながら禅思想という点からの説明がなされていなかったという点、美術研究家が美術品としての評価や批評を行っているが「画賛」として墨蹟が本来持つ禅の宗教的なメッセージを説明していないという点などがあげられる。さらに、世に伝わる白隠の墨蹟は、数千点にも上ると言われているが、一般に知られているのはわずかであり、美術品として海外への流出や国内でも移動が激しさを増しつつある点からも、花園大学の国際禅学研究所が、宗門をはじめ美術館、博物館、個人所蔵家などで所蔵されている墨蹟調査を行うことになり、この一大調査プロジェクトに、私も縁あって同研究所研究員として調査研究に加わることになった。

白隠さんの墨蹟とは

さて、「白隠」と聞いて果たしてどれだけの宗門内の人が答えを複数出せるだろうか。私自身がそうであったように、宗門人の白隠への一般的な印象は、「白隠禪師坐禅和讃」、考案「隻手音声」、「太い筆致の達磨の墨蹟」、「江戸時代の高僧で臨濟宗中興の祖」といった事は述べる事が出来るとしても、詳細について多くを語ることはなかなか出来ないのではなからうか。「白隠の画賛はあまり好きになれない」、「白隠関連の寺は妙心寺派で、自分は他派だから」などという声を宗門内で聞くこともあった。そもそも我が宗門内が、一番関心が低いのではないか、との疑問がある段階で持つようにもなった。

この調査を通じて痛感したのは、白隠について宗門内でさえ、特定の知識のみしか共有されておらず、それ以上については知る方法が少ないということであり、裏を返すとこの墨蹟調査は、宗門にとっても初めて行われた本格的な調査であったといえよう。

期間中に触れた墨蹟は白隠六十代以降、七十代、八十代に書いた物が圧倒的に多いが、新発見のものが多数、四十代の若書きと判断したものなどもあり、白隠自身の心情の変化もつぶさに見て取れた。

調査は、冒頭に記した調査依頼状に同封した返信はがきの返信状況と内容をリストアップしていくことから始まった。発送数約四三〇〇に対して、協力いただいた返信は一年目で四〇〇か寺を数え、墨蹟編集作業に入る時点では五〇〇か所にのぼった。そして地域ごとに分け、撮影取材の優先順位を設けて、返信していただいた所蔵品のより詳細な確認が必要な場合は再調査依頼をお願いし、実際に寺院などの取材地を効率よく訪問するために日時などを決め、撮影機材の用意や最初の訪問先への事前機材発送などの準備を整えた。

撮影に関しては、撮影開始時点と終了時点ではかなりの進化と工夫による省力化を行うことができた。时期的にデジタルカメラと周辺機器の技術進展期にあたり、それまでは高精細画像はポジフィルムが基本であったところ、デジタル画像が



2006年 取材先



2007年 花園大学教堂ホールにて

ムで撮影したのも、スキヤニングしてデジタル化されるのはパソコンに一元化され、作業の能率化を図るようになされた。

手元に残る当時の記録のを見ると、一日の最多訪問寺院数は七カ寺、一日の最多撮影点数は約一四〇点、最多出張回数は、平成十九年(二〇〇七)の二十回などである。有難かったのは、地区によっては、一カ所のお寺に周辺の寺院から墨蹟を持ち寄ってくれたことである。当初は寺院を優先的に調査したが、博物館と美術館、美術商、個人な

その役割を十分に担うようになり、内容によって研究員のみでも撮影が出来るようになった。もちろんプロカメラマンの手ほどきを受け、ポジ撮影の時もデジタル撮影を同時に行い。デジタル画像は、そのままパソコンにデータとして蓄積され通し番号を付ける。ポジファイル

ど順に調査依頼先を広げていった。また、調査が進展するに従い、所蔵者側から逆に調査希望依頼が来るようになり、研究所に直接墨蹟を持ち込んでもらう機会も増えた。こうして、調査を続けるにつれ研究所内には「白隠学」「白隠学研究室」という言葉も定着し、刊行へむけての機運も盛り上がりを見せるようになっていった。

「白隠禪師坐禅和讃」は一点しかない

白隠といえど現在宗門では必ず「白隠禪師坐禅和讃」を取り上げる。坐禅会を始め多くの機会に読むこともあることから、現存する墨蹟の点数はさぞかし多いと思われるのではなからうか。しかし、二五〇〇点以上の撮影をして、現在確認出来ている「白隠禪師坐禅和讃」の墨蹟はわずかに一点のみであり、しかもそれは花押、落款、関防印はなく、さらに明治時代に釋宗演禪師が加筆したもので、白隠が草稿として記したと考えられるものが伝わっているにすぎない。

調査時に、一点一点の墨蹟を床の間や掛け軸掛けに掛け、軸をスツと下へ広げ、初めて眼前に現れる墨蹟と初めて対峙した時に得る、ファーストインプレッションとでも言うべき印象は、軸の大小、絹本と紙本の違い、着色の有無などがあるにせよ、どれも白隠の息遣いや「気」を感じるものであった。「柏樹子話有賊機」「南無地獄大菩薩」などと対峙した時は、背筋が伸び、緊張感が漂ったのを覚えている。言い換えると、墨蹟と向かい合うことは、まさに参禅の間に入室し、白隠老師と対峙しているような心境

にさせられた。

よく白隠の墨蹟は偽物が多いのではないかと、言われたりする。確かに調査では、偽物にもお目にかかったが、これも数を見ていくうちに、一定の傾向があることに我々は気が付いた。偽物にも宗教的な意味を求めたものと、そうではなくただ金銭目的で贋作されたものがあるということである。前者には、本物が手に入らない為に模写をして、それを実際に掛けて祈りの対象にしていたものなどの例がある。この様な場合は、軸の本紙は日焼けやシミ、折れなどの傷みがあるが、それはすなわち使われてきた証拠である。興味深かったのは、ある地域に調査に行ったときに、本物以外にも同様の偽物が複数あったことがあり、これらはその地区の信仰心の深さを物語るケースと見えよう。

白隠は八十四年の生涯で、現在の都道府県でいうと東は千葉県、北は新潟県、西は広島県、南は愛媛県まで足跡を残した。この墨蹟集のための取材の調査では、北は宮城県から関東、そして特に何度も出かけたのが山梨県、長野県、静岡県、愛知県、岐阜県内各所、近畿から島根県、愛媛県、九州各県の広範囲に及んだ。静岡県は言うまでもなく白隠のおひざ元であるが、駿河から伊豆にかけて、あるいは遠州へと取材を重ねるたびに、墨蹟の撮影以外にも、各地に伝わる「白隠坐禅岩」などへ足を延ばすことが出来た。

また白隠が拝請を受けて出かけた寺や、高弟が住職として入寺した寺、在家の弟子の子孫のお宅などに訪問して拝見した墨蹟などは、その中にその寺院名や個人名を

多彩に変え、あの手この手を使って
禅の教えを見る者、読む者に説いた
のである。

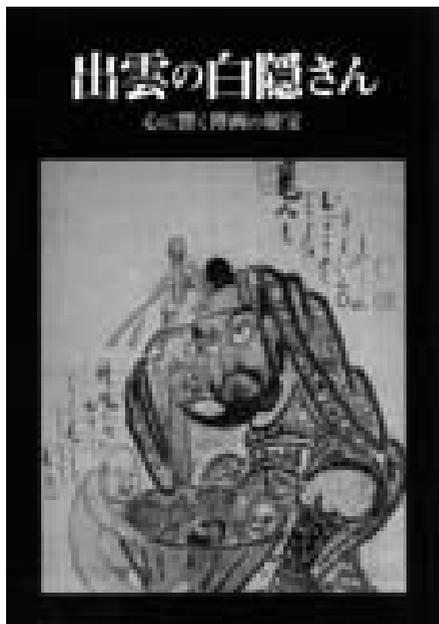
「白隠展」の開催と図録の発刊

墨蹟調査の進展と共に、各地では「白
隠禅師墨蹟展」を行いたいという話
も聞かれ始め、平成二十年(二〇〇八)
の宮城県松島瑞巖寺を皮切りに島根
県出雲文化伝承館、岐阜県下呂をは
じめ各地で墨蹟の展覧会が行われ、
その準備と図録の編集にも研究所が
関わることになった。同時に墨蹟調
査の途中経過をまとめて、新たに見
つかった貴重でユニークなものを芳
澤氏や各分野の白隠研究者が発表す
るシンポジウム「白隠フォーラム」
の開催を東京や白隠ゆかりの各地で

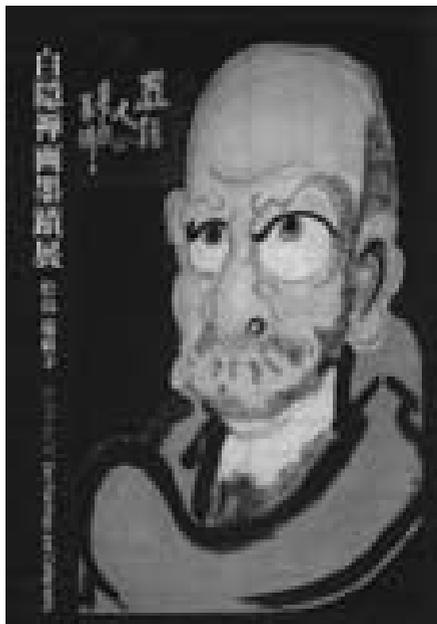
書いて与えているものもあり、その取材先にしかありえない無二の存在で、これもまた
白隠の息遣いをつぶさに感じ取ることが出来るものであった。白隠の筆致は決して太
いものだけではなく、二次平面に三次元世界を表現し、教えを説く相手によって内容を



2007年 沼津「白隠坐禅岩・八畳石」での坐禅



2010年 出雲文化伝承館「出雲の白隠さん」



2008年 瑞巖寺「白隠禅画墨蹟展」

行い、さらに海を渡ってニューヨークでも開催され盛況を博した。

これら一連の調査の成果をもとに、平成二十一年(二〇〇九)三月に、二玄社から『白隠禅画墨蹟』として全三冊(禅画篇・墨蹟篇・解説篇)として、禅画編に六八四点、墨蹟篇に三六六点、合計一〇五〇点を収録したオールカラーの大墨蹟集を発刊するに至った。刊行の辞で芳澤氏が「白隠は江戸中期に出現した、とてつもない一大現象である。その余波は時空を超え、現代にまで及び、海外にまで影響を与えている。」と述べている。

五〇〇年に一人の逸材

白隠禪師は「五〇〇年間出の人」という。白隠が自分自身で言い出したそうであるが、五〇〇年に一人の逸材だということであるから、平成二十九年(二〇一七)の二五〇年

遠諱でちょうど半分、つまり白隠のような大量の人物は最低でもあと二五〇年ほど待たなくてはならない、ということになる。ということは、我々は堂々とこの白隠の残したものを大いに活用したらよいのである。有難い事にその教えの要点が詰め込まれた書物が、芳澤氏の尽力により相次いで編集され発刊された。その代表が『白隠禅画墨蹟』の発刊であり、一〇五〇点の墨蹟が解説付きで拝見出来るようになり、この図録をもとに他の各研究者による関連著書も発刊されてきた。まさにこれらは、我々にとつてのバイブルであり、宗門関係者はこれを使って日々の法話や教化活動に大いに活かすべきであると思う。

掛け軸や卷子などの取り扱いや出版の為の撮影技術などを身につけることができたのは言うまでもなく、何よりも二千数百点の白隠墨蹟を直接拝見することで、白隠老漢の鉄槌を、時代を超えて受けたような思いである。このような経験をさせていただくことが出来たのは、有難いご縁の何物でもなく、今後同様の経験が出来ることはま

ずないであろう。白隠の伝えたメッセージは、没後二五〇年を経てなお活き活きと我々の心に染み入ってくる。墨蹟を書き与えた相手は、門前の手習いの子供たちから大名殿様に至るまで、老若男女身分を問わない。それは白隠自身に大量があったからであり、「上求菩提、下化衆生」を体現することに徹しきったその姿を、墨蹟を通じて得ることが出来るからである。



2009年 二玄社より刊行『白隠禅画墨蹟』のパンプレット

おわりに

「白隠禅を現代にどう生かすか」と問われれば、私は白隠の残された膨大な数の墨蹟や書籍を用いるべきだと申し上げたい。一幅の墨蹟(たとえ本物でなくとも図録や関連書籍から構わない)から、まずは本人が何かを感じていただきたい。「画賛」、つまり絵と言葉を合わせて理解し、それがどの様な人物に与えられたものなのだろうか、と考えてみてほしい。そうすれば、より一層白隠が墨蹟に込めた思いを感じられよう。皆さんが禅寺の檀信徒であるならば、疑問は菩提寺の和尚にぶつけてみて欲しい。そして、その次に自分自身がスピーカーになって、これを伝えればよいのである。白隠の目指した「十字街頭」を解釈し、それを大いに活用することこそ、一番の生きた白隠禅であろう。「五〇〇年間出の人」ということは、あと二五〇年は堂々とこの教えを伝えていく責務が、特に宗門関係者にはあるのだから。

【参考文献】 花園大学国際禅学研究所編・芳澤勝弘監修・解説『白隠禅画墨蹟』禅画篇・墨蹟篇・解説篇 全三冊(二玄社、二〇〇九年)

※この文章は、平成二十九年五月十二日に花園大学で開催された白隠禅師二五〇年遠諱記念「白隠シンポジウム」で発表・掲載された文章を、臨済宗黄檗宗連合各派合議所の許可を得て、加筆修正したものである。

本稿の作成、シンポジウム発表にあたり、白隠墨蹟調査時の画像使用について御高配、御許可を賜りました取材協力先、各墨蹟所蔵者、図録発行元各位に、御礼申し上げます。

白隠禅師二五〇年大遠諱接心会に刺激受け

第六教区 光明寺坐禅会員 上野敏孝

本年四月末に妙心寺で白隠禅師二五〇年大遠諱接心会(二泊三日)があり、参加させて頂きました。鹿児島から参加したのは、昨年に久留米の梅林寺で臨済禅師一一五〇年遠諱の接心会と同じ四人衆です。

接心会は、約一五〇人中の十五人もが米欧の人々でした。彼らは代々仏教ではなかった。神話を根拠にする宗教から見れば御利益という非科学性もなく「自己の究明」が本旨の仏教に、現代性を見出してなのか「改宗者が増えている」そうでした。「自分は禅宗に移ったけど妻(日本人)は浄土真宗なんです」と言うロスアンゼルス臨済寺グループの方と話すと、旧セイロン・パナドラ漁港の宗教論戦(一八七三年)も御存知でした。007(シヨン・コネリー、浜美枝時代)が仏教でエキゾチズムを演出した時代、カルト宗教のように扱われた時代も遠く去りました。その普遍性が新しい「アメリカ仏教」を生んでいるのでしょうか。そうした彼らが、白隠禅師の自己究明に学ぶため日本を訪れた事に私たちも刺激を受けました。

そういえば、隠れて足をさする私の横で、ダルマさんばりの巨体が結跏趺坐しているゆえ『そりゃあ辛かろう』と労れば、「ワタシ、エクササイズ(修行)して十年デス」と

(余計なお世話でした)。自分が恥かかぬよう頑張らざるを得ませんでした。

光明寺坐禅会も、家の宗教には関係なく「坐禅」してきた者が大方です。本で読んだ白隠禪師の「隻手の音」や、「富士山に荒縄かけて引つ張ってこい」が分からない。それをさて置いて坐禅している点が共通項です。私のように公案・禅問答をクイズ番組のヒントの様に捉えて何十年も迷い道した者も。その迷い道から本筋に戻るきっかけを得るため切磋琢磨した三日間でしたが、矢の如く過ぎました。

嶺 興嶽管長猥下が提唱された「坐禅和讃」。厳しい修行をされた白隠禪師が一転、なんと優しい「和讃」を創造されたのかと改めて驚きます。わずか数日でも、「己が愚痴の闇路」を認め、あれが欲しいこれが欲しい・・・と貧里に迷う自分を究明します。・・・面倒くさい、良く思われない、赤信号は嫌、青になれ、のエゴだらけ。その実、親に支えられ、天からもらったリズムで呼吸し食べ物を消化して、見え・聞こえ・血も循環しています。「何をか求むべき」「衆生本来仏なり」が。

私は商いに明け暮れていて仕事そのものを禅修行にしないと時間がありません。それが宿命だから波状攻撃してくる難題に答を出そうとします。これを公案、参禅入室に見たてて出処進退を示すしかありません。

そして則竹秀南老大師の講演が佳境に入るや突然の雷鳴と豪雨。

法堂の天井に描かれた狩野探幽筆の龍が八方睨んで「求道せよ」「自らに手を当てて、雑念の根元を睨みつけよ」と叱咤していた様な気がしました。

白隠禪師二五〇年大遠諱接心会に参加して

第六教区 光明寺坐禅会員 尾辻博志

平成二十九年四月二十八日～三十日まで、京都の妙心寺にて白隠禪師二五〇年大遠諱接心会が行われ、鹿児島より四人の有志と共に参加させて頂きました

二十八日午後二時に受付を済ませ、総茶礼の後、安単・薬石・坐禅と進む中で、緊張感と意欲が高まってまいりました。

二十九日の午前四時「開静」との大声で起こされ、朝課・坐禅・粥座・管長猥下の提唱・白隠展の鑑賞が花園大学で行われました。目の前で白隠禪師の「南無地獄大菩薩」の墨蹟を鑑賞し、あまりの迫力に足が竦む思いがして、しばし動けなくなりました。

斎座の後、則竹秀南老大師により法堂にて公開講座が行われましたが、それまでの晴天が嘘のように大荒れとなり、まるで白隠禪師が天から降りてくるような雷・稲妻の状況でした。

その中で、老大師の「古人刻苦光明必ず盛大なり」というお話が、白隠禪師が老大師を介して我々一五〇余名に語りかけていらっしやるようでした。公開講座が終わり法堂から出ると、空はすっかり晴れ渡り穏やかな風が吹いておりました。

開浴後に夜九時まで坐禅を行いました。が、明朝のことを考えると坐禅にもよりいっ

そう熱が入りました。

翌朝一足先に起きて大方丈の廊下で坐禅し、雪丸令敏老大師への参禅に備えました。「このころのなかに、いつも思っていると、必ずわかる時がくる」との温かい言葉を頂き、嬉しく思いました。

後から参禅している二人を待っている間、それまで無かった震えが全身に起こってきました。最後に管長猥下の提唱を大方丈で伺い、全員で作務を行いました。分散茶礼で「坐禅会の興隆のため尽力するように」とのお言葉をいただき分散となりました。

二泊三日大切な時間を過ごさせていただきました。これもひとえに、光明寺の和尚様をはじめとして、皆様方のご尽力の賜物あつてのことと感謝いたしております。誠にありがとうございます。



慈照院宸殿解体修理・付大玄関(式台) 渡り廊下屋根葺替工事報告

慈照院住職 久山隆昭

当院、宸殿は京都御所紫宸殿の南の東山院旧殿にあつた建物で、東山天皇の皇女(光明定院)が誕生後間もなく亡くなった為、桂宮家を通じて縁のある当院に菩提のため移されたもので、寺伝によれば「玉座の間」とも称されたという。建物の桁行六間、梁間二間の細長い建物だが、本来は桁行十二間あり、当院と大部分は常在光寺(旧鹿苑院境内)に建てられた。(後者は天明の大火で消失し、現存しない)

宸殿には、上段の間があつた。一間半床には違棚と小襖(四枚山水画)、半間は張付壁だったが、昭和二十九年先住忍堂和尚の代に祭壇が設けられ、同院開祖の在中禅師(相国寺十三世)が奉持した秘仏大黒天が安置された。

しかし、移築から三百年程経過し、特に昭和五十年度の烏丸線地下鉄工事の振動又、阪神淡路大震災で、建物全体の傾斜及び天井裏の材木、瓦のずれ等、破損いちじるしく、このままの現状では倒壊する可能性もある為、今度平成二十六年十二月十一日より解体修理を着工し、平成二十八年十一月十九日に管長猥下、一山諸老宿、関係寺院、工事関係者、

総代等が参列のもと、無事落慶式が挙行された。

当初、屋根葺材は柿、又は桧皮葺であったであろうと考えられる小屋組の軒桁、梁の組み合わせが細く(小さく)、軒の荷重を受ける桔木も概して細く、途中から瓦葺になった為重さに耐えられず折損又傾斜による各場所での不同沈下の原因ともなった。その上に地盤はもと現在の中庭が南に延びていたか、藪地だったと思われる、急遽、平地にして旧殿を組み立てられたと考える。

今回の工事では、基礎を堅固にするため、五十センチ程全面を掘り下げ、その上に碎石を入れ鉄筋を全面張り、セメントを流し込む礎石、束石も固定、さらに赤土と石灰のたたき仕上げの四重構造となる。こうしたしっかりした土台の上に立派

な太い小屋組が、社寺建築の伝統と現代の地震対策をも考慮して金具類、筋交い等も入れられ頑丈な骨組が出来上がった。

そして、二十七年四月十日に地鎮祭を行い、補足木材加工、再使用材の補修後、七月より木部の組立が開始され、十月十五日に上棟式、十一月屋根野地完了、荒壁塗り完了、十二月に入り屋根土居葺、瓦葺が完了した。

明けて二十八年一月からは、軒樋。木部内法材加工、取付開始。二月から仮設素屋根撤去が始まった。三月から木部天井廻り、外部縁廻り組立。六月～七月左官中塗り～上塗り。七月～八月建具建合わせ。宸殿脇に便所改造。九月畳搬入、貼壁、襖搬入、障子等貼替。同時に、工事資材置場の撤去後、宸殿南(旧庭)の整地にかかり、石の配置、苔植、最後に白川砂



完成の中庭より見た建物



土井葺(瓦をのせる地下張り)

を入れる。東山天皇の故宮の一堂である
旨が記された正徳三年（一七二三）の棟札
が見つかり、署名者の別宗和尚は対馬
以酊庵輪番の外交僧で、正徳年度の朝鮮
通信使接伴僧で知られている。改修後の
庭園は瀬戸内海をイメージしたものです。
一方、大玄閣（式台）、渡り廊下屋根工
事用の素屋根架けが始まり、瓦降ろし、
木部実測査。三月には軒廻り、小屋組の
解体。四月～六月軒廻り等木部修理。七月
～八月土居葺き、瓦葺き。八月仮設素屋
根撤去、九月障子等貼替え。

以上、工事の記録を略記しましたが、
実に二年近く関係業社方の誠心誠意のあ
る工事により、無事に事故もなく、完了
をみました。現在、安心して美しくなった
建物で、法事、観光用にと使用出来、感無
量であります。



大玄閣(式台)修理工事

相国寺の庭園

第二回

放生池の花蓮

植昭 長岡造園 長岡秀晃

大本山相国寺の山内南側、総門を入るとすぐ目に入ってくる「放生池」が今回の舞台です。天界橋を挟んで東西に分かれており、相国寺に残る数少ない桃山時代の遺構であると考えられている勅使門の北側に位置しています。一五五一年の天文の乱は、こちらの天界橋を挟んで始まったと言われています。

そんな歴史ある遺構に初夏の彩を添える、花蓮の管理について今回はお話しさせていただきます。

相国寺の花蓮の花期は六月上旬からお盆頃までです。花期の間は二十五種類程の花蓮が目を楽しませてくれます。中には二千年蓮として有名になった「大賀蓮」のような貴重な品種もあります。池を見渡すと数多く咲いているので、長い期間楽しめる物だと思いがちですが、一輪は儂いもので開花から四日間ほどで散っ

てしまいます。

一日目の早朝に花が開き、昼前には閉じます。二日目は早朝に開き、夕方閉じます。三日目には、早朝に咲いて閉じることなく咲き続け、四日目にはほとんど花を散らします。このように儂い花蓮ですが、手間のかかる植物で、毎年株分けを行ってやらないと花数が減ってしまいます。

弊社では、毎年三月中旬から四月上旬にかけて植替え作業を行っています。一〇〇鉢程ある大きな鉢を一つずつひっくり返し、中の蓮根がぐるぐると円を描くように育っており、前年の蓮根が腐り、発酵してメタンガスのようなにおいを発しています。取り出す際、蓮根から出ている芽を折らないようにすることが重要で、芽が折れてしまうといくら立派な蓮根が取れても育ちません。取り出しが完了したら、株分け



花蓮



勅使門と花蓮

した蓮根を新しい土・肥料等と一緒に鉢に戻して植え込んでいきます。株分けの際、大きな鉢からだると十個ほど元気な蓮根が取れるのですが、植替え時に入れるのは二、三個です。少ないように思いますが、この数で十分成長してくれます。

植替えが終わると、日当たりの良い場所に鉢を置き、浮き葉(水面に浮く葉)が出てくるのを待ちます。浮き葉がある程度出そろうと、次に立ち葉(立ち上がる葉)が出てきます。この頃に葉が出てこない鉢の蓮根は取り換え、一つでも多く花が咲くようにしています。立ち葉が出そろい始めたころに、待望の花芽が上がってきます。立ち葉が出る頃からは随時追肥を行います。栄養不足にならないように心がけます。また、花が咲き始めてからは増えすぎた葉の剪定も行い、拝観の方から花が見やすいようにしています。

ます。

葉数が増えるにつれて蒸散量が増え、気温も高い季節になることから、鉢の水が減るのがとても早くなります。鉢の水が切れてしまうと葉の水分がなくなり、枯れてしまうため水切れにも注意が必要になってきます。

花期も終わり、九月に入ると徐々に出てくる葉が減ってきます。その頃にすべての葉を切ってしまうます。水上には枯れた茎だけが残った形になりますが、土の中では次の春に向けて蓮根が育っていきます。

このようなサイクルで年間を通じて管理を行っております。

今年も五月中旬の原稿執筆時点で順調に葉が出始めていますので、もうすぐ立ち葉や花芽が上がってくると思います。今年も、花蓮が多くの皆様の目に留まることを願っています。



花盛り



植替え風景

「昭和を偲ぶ」

演劇塾 長田学舎 斉藤維明

この春でした。

テレビのワイド番組で、アナウンサーが著名な俳優が亡くなったことを伝えていました。その後、コメンテーターの一人が、その俳優のとなりや功績をほめ称えたのち、「ここ数年、巨匠と言われる昭和の文人や大スターの芸能人が次々に亡くなって淋しいですね。何となく昭和は遠くに成りにけりと云う感じがしなくてもありませんね」と言ってコメントを締め括りました。私はそのコメントに少し違和感を覚えました。

日本の総人口に占める昭和生まれの人の数は、平成生まれの人より随分多いのです。

数十年前に「明治は遠く成りにけり」と云う同じような台詞を耳にしたことはありますが、それにしても「昭和は遠く成りにけり」とはちょっと早とちりに思えたものです。

昨年夏、今上陛下が現在の御心境を述べられたことを受けて、この春から、国会で生前退位の特例法案が審議されました。そしてその立法が成立して、ここ一、二年のうちに新しい元号に改元されることに

なります。そうなったとしても、せめて二、三十年後であれば「昭和も遠く成りにけり」と云う台詞にも納得出来るように思うのですが。

私は、昨年の夏に亡くなった永六輔がパーソナリティーをつとめていたラジオ番組が好きでした。

私の中では、彼は昭和を代表する文化人の一人と思っています。

私が彼に親しみを覚えましたのは、お寺の息子だと云うごく単純なことでした。

彼は東京浅草の浄土真宗のお寺の次男坊ですが、私も宗派は違いますが、北海道の山村の曹洞宗のお寺の四男坊です。

ラジオで「思春期の頃は、檀家の葬式や法事のお布施のお陰でご飯が食べられたり、学校へ通えたりしてることが妙に肩身が狭く、恥ずかしく思えたものでした」と語ってたことがありましたが、私もそんなことを思った時期がありましたのでより親しみを覚えるようになりました。

テレビ放送の創成期、NHKの「夢で逢いましょう」と云う、今では伝説的になった番組をはじめ、沢山の番組の放送作家として活躍しました。

又、作詞家としても、中村八大、いずみたく等の作曲家と共に、後世

に残るヒット曲を世におくり出しました。中でも、坂本九が唄った「上を向いて歩こう」は、国内はもとより、世界的な大ヒット曲になりました。

その後、作詞家をやめて、司会業や文筆業にその活動の場を移します。その中で、いろんなジャンルの人達との対談を基にした異色のエッセイ集を多数出しました。その集大成と言える「大往生」は、二百万部もの発行部数の売り上げを記録して、文化人としての地位を不動のものとなりました。

失礼なことを承知で表現しますと、短髪でちょっと馬面の風貌と、ウィットのある鋭い批評眼を持った分かり易いおしゃべりは、世代を問わず多くの人から愛される人柄だったと思います。

晩年は、前立腺癌、パーキンソン病と云う二重の大病を煩い乍らも、平和を語り、反戦、脱原発を訴えて、反骨精神を貫きました。

その背景には、子供の頃の戦争体験があったと語っています。

「疎開先の長野から東京へ戻ると、空襲のため一面焼け野原……。仲の良かった同級生、親しい人、近所の恐いおじさん、優しいおばさんなど

多くの失った命―。それは悲しいと云うより虚しいと云うか茫然自失と云う状態だった」

生前、娘さんに語っていたと云う言葉も印象的です。

「人は二度死ぬ―。肉体が減びて人生を終えた時が一度目の死―。後に残された者が、亡くなった人のことを思い、精神(こころ)―魂を受け継いでいく限りそれは生き続ける。やがて誰からも忘れ去られた時に二度目の死がやって来る」

演劇塾長田学舎(おさだ塾)を創立された恩師の長田純先生が生前におっしゃっていたこと、実行されていたことを思い出します。

長田純先生は、恩師と仰ぐ浄土宗の高僧であられた藤原弘道先生、陶芸家で人間国宝の近藤悠三先生のご命日には、欠かすことなく、必ずお参りに行かれていました。先生お二人から受けた教え、精神(こころ)を継承され、感謝を忘れられなかったことの表れであったのでしょうか。

長田先生が逝去されて早や三十一年が経ちました。先生のご位牌、遺影に手を合わせる度に、般若林の稽古場に今も御座しますことが感じられます。



今、世界に目を向けますと、各地で戦争、紛争が続き、更に、イスラム国などと云う過激な集団によるテロ事件が頻発する不穏な世情です。日本の周りを見ても、北朝鮮の核・ミサイルの脅威と、それを軍事圧力で抑え込む為に日本海に展開するアメリカ軍は、一触即発の軍事衝突の危険をはらんでいます。

よく、歴史に学ぶと云うことが言われます。こんな時代だからこそ、戦争の地獄と高度経済成長で繁栄をもたらした平和な天国が交差した昭和と云う時代に学ぶ必要があるように思います。

私にとって、昭和はまだまだ近くて思い出深い時代なのです。

秋のおさだ塾の自主公演のお知らせ

観客完全参加の終日野外劇

『町かどの藝能』その四十二

「般若林」のお庭に入っすぐの木戸を一步くぐると
其処は江戸時代の京の都——
芸商人の芸と商い、観客の笑顔に溢れる
江戸時代の縁日にタイムスリップ

平成二十九年 十月十三日(金)・十四日(土)・十五日(日) 十一時〜十六時 於・般若林(相国寺北門前町)
お問い合わせ先／おさだ塾 TEL・FAX(〇七五)二二一〇一三八

本山だより (平成二十八年十一月〜二十九年七月)

○鹿苑寺開山忌

十一月二十一日、鹿苑寺(澤宗泰執事長)では開山忌並びに開基足利義満公の諷経が厳修された。有馬管長を導師に小林老大師、佐分宗務総長はじめ一山ならびに縁故寺院尊宿により諷経がなされた。

○第二寺務棟地鎮祭

十二月八日、成道会の法要後に本山庫裏(香積院)に隣接する第二寺務棟建設現場において、有馬管長を導師に本山一山、施工業者の竹中工務店や関係業者が出席し地鎮祭が執り行われた。

式では般若心経と消災呪が読経されたのち、地鎮の儀として鍬入れ、四方固めが行われた。竣工は今夏八月末の予定である。



本山一山、工事関係者が出席し行われた式典



鉢入れの儀を行う有馬管長



四方固めを行う有馬管長

○第一教区 支所会議

十二月八日、第二寺務棟地鎮祭後、第一教区宗務支所の支所会議が開催され、平成二十九年二月付けで改選する人事について話し合われた。

○同宗連第一連絡会

十二月十四日、平成二十八年度第三回『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議の第一連絡会が大徳寺(京都市北区)で、開催され、矢野教学部長、江上教学部長が出席した。

○臨黄合議所理事会

一月二十四日、臨黄合議所理事会が京都市内で開催された。臨済禅師遠諱関連事業の報告が行われ、佐分宗務総長と前宗務総長の山木康稔師(普廣院閑栖)が出席した。

○第一教区 総会

二月九日、第一教区総会が京都市内で開催

され、有馬管長以下、第一教区各寺院住職、閑栖和尚、副住職の計十八名が出席した。

○第十二回 臨黄教化研究会

二月十三日、十四日の両日、花園大学の教堂並びに花園会館において臨黄合議所主催による第十二回臨黄教化研究会が開催され、本派からは教区順に佐分昭文師(第一教区豊光寺副住職)、澤宗秀師(同林光院副住職)、荒木泰量師(同光源院副住職)、平塚景山師(同養源院副住職)、佐々木契堂師(第三教区天正寺住職)、加藤幹人師(第四教区南陽寺住職)、芝原祥三師(第六教区感應寺住職)、近藤永進師(同良福寺住職)、松下恵悟師(同永徳寺住職)、松本昭憲師(同光明寺住職)、田中正明師(同龍源寺副住職)の十一名が参加、また開講式と基調講演には佐分宗務総長、矢野教学部長、江上部長も出席した。また基調講演後、班別で行われる分科会では、矢野部長も加わり盛んな討議が行われ、他派の和尚方と共に研鑽を積んだ。

○禅文化研究所理事会

二月十八日、公益財団法人禅文化研究所理事会在同所にて開催され、佐分宗務総長、久山慈照寺執事が出席した。

○臨済宗連合各派布教師特別研修会

ならびに理事会

二月二十六日より二十八日まで、南禅寺(京都市左京区)に於いて布教師特別研修会が開催され、初日の開講式と理事会には佐分宗務総長が、最終日の閉講式には矢野教学部長が出席した。

○東京別院開山忌並観梅茶会

三月四日、相国寺東京別院において開山忌が厳修され、有馬管長導師のもと佐分宗務総長をはじめ一山和尚や招待客が出頭した。その後は観梅の釜がかかり、書院での薄茶席に続き、茶室「正覚庵」で管長自らのお点前による濃茶がふるまわれた。さらに客殿の点心席

では、庭園の紅梅白梅をご覧いただき、よき早春の一日となった。薄茶席、濃茶席、点心席での接待や諸説明、来客の受付案内等は、一山和尚が務めた。

○定期宗会

三月十日、各教区から登山した七名の宗会議員(新任四名)、評議会議長、鹿苑寺・慈照寺各代表、内局員全員の計十七名が出席のもと、平成二十八年度定期宗会が本山会議室で開催された。有馬管長の入場後全員で開山諷経、続いてご挨拶をたまたわった後、芝原一三師(第六教区感應寺閉栖)を議長とし審議に入った。代議員、会計監査員の選定に続き、平成二十七年相国寺派・相国寺本山決算報告、二十九年相国寺派・相国寺本山予算案、承天閣美術館平成二十七年決算・事業報告、二十九年予算案・事業計画案が承認可決、任期満了に伴う次期宗務総長候補者推薦が可決された。



定期宗会審議に先立ち挨拶する有馬管長



決議録を読み上げる芝原新宗議会議長

○春期巡教

臨済宗連合各派布教団に所属する本派布教師の「平成二十九年定期巡教」で、松本憲融師（第六教区光明寺閑栖）が三月十四～二十一日に佐賀県唐津市の南禅寺派の計十四カ寺を、石崎靖宗師（第四教区海岸寺住職）が三月十七～二十二日に彦岐の大徳寺派の計八カ寺を順に巡教した。

○同宗連第一連絡会

三月二十四日、平成二十八年度第四回『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議の第一連絡会が仁和寺（京都市右京区）に於いて開催され、矢野教学部長、江上教学部員が出席した。

○瑞林寺夢窓国師毎歳忌

三月二十六日、第三教区瑞林寺（三重県津市・長谷寺高山宗親住職兼務）では開山毎歳忌が厳修され、矢野教学部長と澤宗秀師（林光

院副住職）が拜請を受け出頭した。

（教区だより79ページ参照）

○河北省仏教協会訪日団来寺

三月二十七日、中国河北省仏教協会副会長の明勇法師を団長とする訪日団が相国寺に來訪した。これは、昨年（平成二十八年）九月に中国河北省臨済寺で行った一連の日中合同法要・諸行事（詳細は本紙前号参照）に対する中国側の答礼と日本の臨済宗黄檗宗各派との交流を目的としたもので、京都や鎌倉などの各本山などを順に訪問された。

相国寺來訪に先立ち、午前中には臨黄合議所当番本山である南禅寺方丈に於いて日中合同法要が厳修され、有馬管長、佐分総長が出頭した。

一行は午後から相国寺にも來寺され、法堂で般若心経一巻を諷誦されたのち、有馬管長、小林老大師ら本山僧侶が出迎え、承天閣美術館二階講堂に於いて歓迎の茶礼と記念品の



南禅寺方丈で中村管長を導師に厳修された日中合同法要



相国寺法堂で諷経をする訪日団一行

交換など行い交流を深めた後、承天閣美術館館内と方丈をご覧になった。その後は、南禅寺門前に場所を移して懇親会が開催された。



訪日団より記念品を受ける有馬管長

尊敬する

中国河北省佛教協会 明勇法師

昨年秋には、臨濟禪師千五十年遠諱法要があり、河北省佛教協会の諸大徳の皆様が大変お世話になりました。あらためて深く感謝いたします。

私も中国へ参りましたが、八十五回目の訪中にして禪師の遠諱を厳修させていただきます。感激でありました。

中日の永い歴史において、なお一層交流を重ね、友好促進を進め、宗祖臨濟禪師の佛法を篤く信奉し、慈悲の心を世界に具現化して行くことを誓いまして、ごあいさついたします。

平成二十九年三月二十七日

相国寺派管長 有馬頼底

○前堂転位式

四月一日、開山堂に於いて第四教区眞乗寺（木下雅教住職）徒弟の中川秀峰師の前堂転位式が挙行され、同日付で同教区西林寺（福井県大飯郡高浜町）住職に就任した。師は昭和五十六年生まれ、龍谷大学卒業後、相国寺専門道場にて修行された。今後の活躍が期待される。

拝塔偈は左の如し

萬年松林天地春
仏光清梵欲存眞
因縁歲月如風去
塔下心亦亦一新



前堂転位式 中川秀峰師

○第四・第二教区 合同少年・子供研修会

四月四日、第四十八回・第四教区若狭少年研修会と第七回・第二教区子供研修会が、本山



方丈でお経を読む参加児童たち



開会式に続いて裏方丈で坐禅体験

方丈・大書院にて行われた。今回は例年より少ない学童四十二名と寺院十三名、役員六名の計六十一名が参加した。登山した少年少女たちは、方丈での開会式で般若心経、消災呪を唱え、佐分宗務総長の法話、第四教区伊藤彰相国会会長挨拶を聞いたあと、教学部指導による坐禅を体験した。また、参加記念として本山より数珠とクリアファイルが送られ、別室にて本山女子職員お手製のカラーライスを作法に従って頂いた後、次の目的地へ向かった。

○第二寺務棟上棟式

四月八日、佛成道会法要に続いて、建設中の第二寺務棟の上棟式が執り行われた。式典には、有馬管長以下一山並びに竹中工務店をはじめ工事関係者が出席し、諷経後の工匠式では四方固めと槌打之儀が行われた。本年八月末には工事が終了し、九月七日に落慶法要の予定である。



諷経をする一山僧侶と工事関係者



棟札を渡す有馬管長

○臨黄合議所理事会

四月十日、臨黄合議所理事会が南禅寺に於いて開催され、佐分宗務総長が出席した。

○相国寺派宗務本所新内局発足

五月一日付で、佐分宗順師（豊光寺住職）の宗務総長による新内局二期目が発足した。任期は三年間。

○鹿苑寺慈海長老三十三回忌

五月十五日、鹿苑寺に於いて村上慈海長老（鹿苑寺前々住職）の三十三回忌が厳修された。有馬管長の代理として小林老大師を導師に本山一山僧侶、ならびに江上泰山師（眞如寺開栖）をはじめ慈海長老遺弟の和尚方や親族、総代ら関係者が出頭・列席し、楞嚴呪行導による法要が執り行われた。

慈海長老は、明治三十五年愛知県出身。十三歳で鹿苑寺徒弟となり、昭和十年に同寺住職に就任。昭和二十五年の金閣焼失後は、



在りし日の慈海長老 写真提供◎鹿苑寺



方丈で厳修された法要 写真撮影◎柴田明蘭氏

懺悔の托鉢を続けられ、多くの協力と支援を得て五年後の再建を果たした。また禅文化研究所の設立にも関わり初代理事長を、また本派宗務総長にも就かれた。昭和六十年に遷化。

香語は左記の如し

開山忌毎歳忌香語

三十三天一歩中 三十三天、一步の中

須弥南畔脚頭風 須弥の南畔、脚頭の風

皈来相遇旧時面 皈り来つて相、遇う、旧時の面

他是阿誰慈海翁 他は是れ阿誰ぞ、慈海翁

頼底九拜

定中昭鑑

○慈照寺開山忌

五月二十一日、慈照寺（小出量堂執事長）では開山忌並びに開基足利義政公の諷経が厳修された。有馬管長を導師に、小林老大師、佐分宗務総長をはじめ一山尊宿、関係寺院僧侶により諷経がなされた。

○第三教区 少林寺落慶法要出頭

五月二十三日、少林寺（藤田宏巖住職・兵庫県丹波市春日町）の堂宇（本堂・庫裏）の落慶法要の拝請があり、本山から有馬管長、佐分総長、矢野教学部長、江上教学部長が出頭した。（教区だより80ページ、巻末カラー107ページを参照）

○相国会本部役員会

五月三十日、午後一時より本山会議室において、平成二十九年相国会本部役員会が開催された。般若心経一巻を諷経後、相国会総裁の有馬管長より挨拶を賜り、今回新理事に就任した第五教区杉原定氏には総裁より委嘱状が手渡された。引き続き副総裁の佐分宗務総長挨拶、第四教区理事伊藤彰氏の議長選出を経て審議に入った。平成二十八年度事業 決算報告、二十九年度予算案、事業計画案の順に事務局より示され、それぞれ承認可決された。また、相国会会員の増減や隔年開催の研修会について、本誌『円明』原稿募集についての案内や提案も行われた。



相国会本部各教区理事・顧問の前で挨拶する有馬総裁



有馬総裁より委嘱状を受ける新理事

当日の出席者は左記の通り。

理事		顧問	
第一教区	片岡 匡三	澤	宗泰
第二教区	波多野 外茂治	牛江	宗道
第三教区	土倉 忠彦	梶谷	承忍

第四教区 伊藤 彰 木下 雅教
 第五教区 杉原 定 延本 輝典
 第六教区 上野 敏孝 芝原 一三

副総裁 佐分宗務総長
 本部長 矢野教学部長
 主 事 山木財務部長
 本部部員 江上教学・庶務部員

○禅文化研究所理事会

五月三十日、公益財団法人禅文化研究所理事
 事会が同所にて開催され、佐分宗務総長、久
 山慈照寺執事が出席した。

○二十九年度 春期特別拝観

三月二十四日より六月四日まで、法堂・方
 丈・宣明(浴室)を公開し、二二、四四九名の参
 拝があった。秋期特別拝観は、九月二十五日
 より十二月十五日まで、法堂・方丈・開山堂を
 公開の予定である。

○観音懺法会「ご先祖追善供養」

六月七日から十四日まで、伊藤若冲筆「動
 植綵絵」コロタイプ複製画三十幅を方丈に掛
 けて公開した。期間中に多くの来訪者を受付
 した。



本年の観音懺法会「ご先祖追善供養」ポスター

○観音懺法会

年中行事の一つの「観音懺法会」が、恒例に
 より六月十七日午前七時半より厳修された。

諸役は次の通り。

◆ 役配

導師 正道東堂(眞如寺住職)
導師 香華 賢明東堂(是心寺住職)
自帰 普廣閑栖大和尚
打磬 昭文塔主(豊光寺副住職)
太鼓 哲永東堂(慈照院副住職)
大鉦 宗秀塔主(林光院副住職)
中鉦 泰量塔主(光源院副住職)
小鉦 景山座元(養源院副住職)
維那 普廣和尚

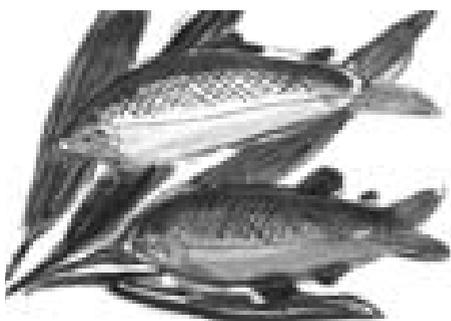
同寺で行われ、平成二十八年度の決算報告、二十九年度の子算案の読み上げがあり承認された。

○同宗連第一連絡会

七月十一日、平成二十九年度第一回『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議の第一連絡会が智積院(京都市東山区)に於いて開催され、矢野教学部長と澤宗秀師(林光院副住職)が出席した。

○臨済宗連合各派布教団本部理事会

六月二十一日、南禅寺において「第九回特別住職学布教研修会」開講式が開催され、佐分宗務総長と矢野教学部長が出席した。研修会には、本派から松本昭憲師(第六教区光明寺住職)が参加し研鑽を積んだ。なお、三十日には閉講式ならびに布教団本部理事会が



坐禅会のご案内

本山維摩会

毎月第二・第四日曜日開催
(※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です)

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主に在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催され、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っています。

維摩会の名称の由来は、經典『維摩経』の主人公で、在家でありながら釈迦の弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものです。

会場：相国寺 本山大書院
時間：午前九時より十一時迄
内容：坐禅(九時～十時半)
法話(十時半～十一時)

注意点：当日は八時五十分までに必ずお集まり下さい。十人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願いします。(電話〇七五―三三二―〇三〇二)
尚、満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。
初めての方には、別室で坐禅指導を行います。

威儀：服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

東京維摩会ゆいまかい

平成二十九年の開催日は左記の通りです。

会場：相国寺東京別院 方丈・客殿

有馬管長坐禅会

九月九日(土)、十月十四日(土)、十一月十一日(土)、十二月九日(土) (八月は休会です)

時間：午前十時半より正午頃迄

内容：『寒山詩』提唱、坐禅、茶礼

注意点：五人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。

満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。

威儀：服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

小林老師坐禅会

八月五日(土)、九月十七日(日)、十月七日(土)、十一月十八日(土)、十二月十六日(土)

時間：午後一時より二時半迄

内容：『臨濟録』提唱、坐禅、茶礼

注意点：五人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。

満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。

威儀：袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

※開催日を変更する場合があります。最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧ください。か、相国寺東京別院 (電話〇三三四〇〇一五八五八)までお問い合わせ下さい。



東京維摩会会場 方丈・客殿 玄関



TEL 03-3400-5858
会場：方丈・客殿
〒107-0062 東京都港区南青山6丁目13-12

第一教区

○慈照院宸殿修復落慶法要

十一月十九日、慈照院(久山隆昭住職)において、宸殿、大玄閣修復落慶式並びに開山在中忌が、有馬管長以下相国寺一山、関係者が出席のもと厳修された。(詳細は41ページ参照)

○出町青龍妙音辨財天「巳の日巳の刻法要」

五月六日、出町青龍妙音辨財天において、第五回「巳の日巳の刻法要」が厳修され、導師の矢野謙堂師(大光明寺住職)以下、江上正道師(眞如寺住職)、佐分昭文師(豊光寺副住職)、澤宗秀(林光院副住職)が出頭し、御祈祷の法要が厳修され、申込者にお札とお守りが授与された。

特に今回は五回目ということもあり、法要

後に有馬頼底管長による伏見宮ゆかりの辨財天についてのミニ説法が行われ、多くの参拝者が聞き入った。来年の同法要は五月十三日に開催の予定である。

○眞如寺「半僧坊大権現」御開帳

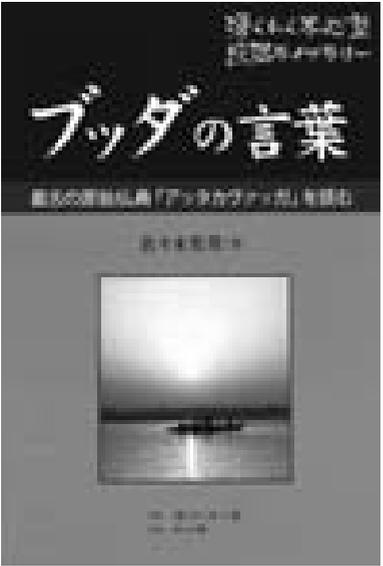
五月十四日、眞如寺においてカキツバタの開花時期に合わせて、鎮守の半僧坊大権現御開帳大祭が行われた。この半僧坊大権現像が当寺に遷座されて、今年で九十九年目となった。御開帳法要では導師の江上正道師以下、矢野謙堂師(大光明寺住職)、佐分昭文師(豊光寺副住職)、澤宗秀師(林光院副住職)ほか住職縁故寺院が出頭し大般若祈祷を行った。同時に、客殿では後水尾天皇ゆかりの華道「山村御流」添え華展と庭園拝観が、書院では抹茶と半僧坊特製菓子による呈茶席が、境内参道では手作り市も合わせて開催され、終日賑わいをみせた。遷座一〇〇周年となる来年は五月十三日に開催の予定である。



慈照院落慶法要後の記念写真 写真撮影◎柴田明蘭氏



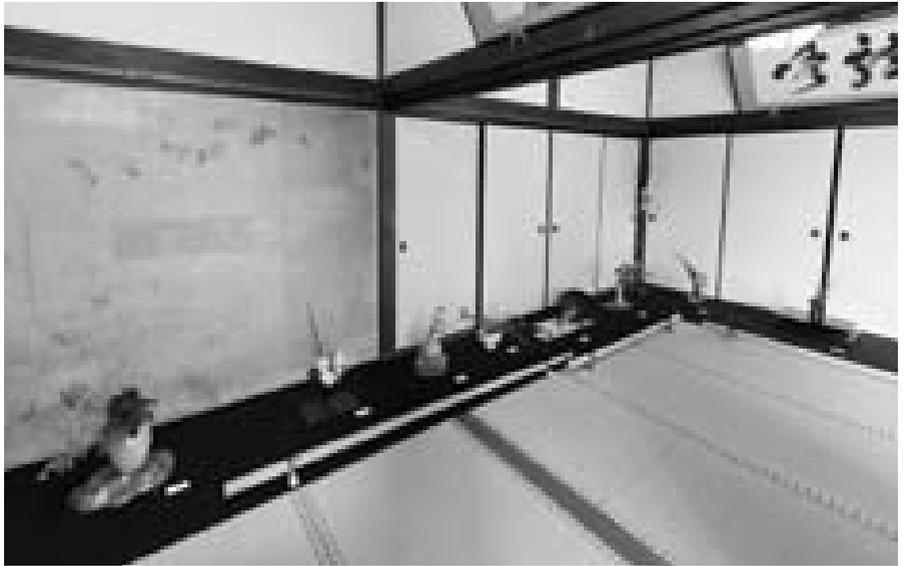
青龍辨財天拝殿前で法要後に話をする有馬管長



佐々木住職著『ブッダの言葉』

○天正寺 佐々木装堂師 書籍出版
天正寺(大阪市天王寺区)の佐々木装堂住職が、二冊の仏教書を出版された。
『禅の言葉』(平成二十七年四月発刊)と『ブッダの言葉』(平成二十八年十一月発刊)でいずれも佐々木師が顧問を務める「湧わく本心塾」からの発行である。内容詳細に関しては「湧わく本心塾」ホームページをご覧ください。
<http://honsinjuku.com>

第三教区



真如寺半僧坊行事に合わせて客殿で開催された「添え華展」 写真撮影◎柴田明蘭氏

第二教区

○定期総会

四月二十二日午後四時より、長遠寺(京都市上京区)に於いて十か寺の出席による第二教区定期総会が開催された。例年の如く、本山賦課金等が集められ、全員で本堂にて諷経を行ったのち、総会に入った。

まず、今年度より一期三年の新たな任期が始まったことが支所長より告げられた。第二教区法務への理解と協力を求める要請があった。次に、昨年度の事業報告や会計報告がなされた。特に今年度四月に本山で行われた子供研修会では、参加希望の子供が初めて一人も集まらなかったことが報告された。これに対して、しばらく休会してはどうかとの意見が出た。

その他、特別な議題はなく、総会後は懇親会となり、薬石を頂き歓談した後散会となった。

また購入についてはWeb通信販売のAmazonのみとなるため、同ホームページをご覧ください。

○瑞林寺夢窓國師毎歳忌

三月二十六日、瑞林寺(三重県津市片田井戸町・長谷寺高山宗親兼務住職)では、本山から矢野謙堂教学部長、澤 宗秀師(林光院副住職)を拝請し、開山毎歳忌を厳修した。



瑞林寺本堂前より拝塔する参列者

当日は、生憎の雨となり本堂前より夢窓國師
生誕地記念碑を拝塔し、大悲呪読誦するなか、
参列者一同焼香し夢窓國師の遺徳を称えた。

○少林寺堂宇落慶法要

五月二十三日、少林寺（藤田宏巖住職・兵庫
県丹波市春日町）に於いて本堂・庫裏の堂宇落
慶法要が厳修された。相国寺本山より有馬頼
底管長猥下、佐分宗務総長、矢野教学部長、江
上教学部員を拜請し、ご出頭いただいた。

当日はさわやかな天候のもと、総代・役員
をはじめ檀信徒が見守る中、落慶法要に先立
ち、藤田住職を導師に少林寺「観音懺法」が門
中並びに縁故寺院出頭のもと行われ、般若心
経と延命十句観音経が誦誦された。

続いて有馬管長猥下を導師に本派法類、同
教区寺院も出頭し落慶法要が開始され、祝語、
大悲呪、開山・歴代先亡諷経ならびに鎮守諷
経を厳修した。その後、管長猥下、宗務総長よ
り祝辞、檀徒総代謝辞、施工業者への感謝状

授与や祝筵が行われた。境内には花々が咲き
誇り、平成二十五年より三か年の工期を経て
完成した堂宇に、まさに花を添えた。

管長香語は左の如し。

古来境頭只依人 古来境頭、只だ人に依る
再復旧規禪社新 再び旧規に復して、禪社新たなり
檀信若無堅固志 檀信若し、堅固の志無くんば
少林花木不回春 少林の花木、春回らず

大龍叟

（本山だより69ページ、巻末カラー107ページを参照）

○継孝院先住称名忌

六月四日、継孝院（大隅高明住職・神戸市垂
水区）に於いて先代住職の大隅嚴道師の十三
回忌法要が厳修された。

当日は、導師を有馬管長猥下が務め、拜請
を受けた本山一山も同教区寺院、近隣縁故寺
院と共に出頭ならびに諸役加担をした。



法要で行導する有馬管長、継孝院住職ら僧侶



落慶に先立ち厳修された少林寺観音懺法法要 写真撮影◎水江修司氏

管長香語は左の如し。

歳華荏苒十三周 歳華荏苒、十三周

無限慈恩竟未酬 限り無き慈恩、竟に未だ酬はず

志景堪思又堪恨 志景思うに堪えたり、

又た恨みに堪えたり

暮雲深鎖旧楼頭 暮雲深く鎖す、旧楼頭

頼底九拜

定中昭鑑

※荏苒……度重なること

石川方面研修旅行を開催した。今回は鈴木大拙館（金沢市）や西田幾多郎記念哲学館（石川県かほく市）を見学した。

○西林寺齋会

十一月二十三日、西林寺にて梅溪和尚十三回忌法要が厳修され、法類、近隣和尚六名が出頭した。

○園松寺齋会

十二月四日、益基和尚十三回忌法要が厳修され、法類、近隣、縁故寺院八名が出頭した。

第四教区

○第三十六回 本派寺院婦人研修会に参加

十一月十一日～十二日、本教区より二名の寺院婦人が参加し、相国寺東京別院ほかで研鑽を積んだ。

○宗務本所 支所会

十一月十六日～十七日、支所会による富山・

○宗務支所 支所会

十二月二十日、正善寺に於いて支所会が開催され、宗務支所長、宗会議員選挙を行った。

○宗務支所

平成二十九年二月六日 真乗寺に於いて新宗務支所の事務引き継ぎを行った。

○若狭相国会 役員会

二月七日、真乗寺に於いて若狭相国会役員会を開催し、春期巡教、少年研修会、「釈宗演百年遠忌」について検討した。

○宗務支所 支所会

四月二十七日、支所会を真乗寺に於いて開催し、平成二十八年度会計報告を行った。

○若狭相国会

五月一日、新たに発足した「釈宗演を顕彰する会」と合同調整会議を行った。

○若狭相国会 役員会

五月九日 城山荘に於いて若狭相国会役員会を開催し、平成二十八年度事業、会計報告及び総会について検討した。

○若狭相国会
三月六日、若狭相国会を真乗寺に於いて開催し、「釈宗演百年遠忌」について検討した。

○宗務支所

三月十七日、若狭相国会と合同会議を開催した。

○若狭相国会 総会

五月二十四日、若狭相国会平成二十九年度総会を、元興寺に於いて開催した。

○西林寺入寺式

五月二十六日、兼務寺院だった西林寺に於いて、中川秀峰新命和尚入寺式を厳修し、

法類、縁故和尚四名が出頭し、檀信徒一同が列席した。人少の当教区にとって、念願である新住職が加わることになった。

第五教区

五月九日、東光寺(斐川町)に於いて、平成二十九年出雲相国会総会を開催し、教区内の寺院、寺院の総代役員が出席致しました。

はじめに、平成二十八年の事業報告、決算報告を審議し承認されました。続いて、出雲相国会の平成二十九年からの新役員を選出しました。

新役員は左記のとおり。

会長 杉原 定氏(富田寺)
副会長 瀬崎兼次氏(西光寺)
会計 樋野広則氏(本誓寺)
監事 勝部 徹氏(東光寺)

引き続き、平成二十九年予算、事業計画を



西林寺第十五世秀峰和尚入寺式

○「円山応挙展」見学

五月二十五日、感應寺(芝原祥三住職、鹿児島県出水市)の日曜坐禅会のメンバーが、熊本



八代市立博物館を背景にした感應寺日曜坐禅会会員

審議し承認されました。主な二十九年度の事業は、夏休み親子坐禅会、本山開山忌に合わせての団体参拝、「出雲相国会だより」の作成です。また、四月十九日、本教区各寺と歴史的所縁のある興聖寺(臨濟宗単立・京都市上京区堀川上御霊前上ル)で開山忌があり、拝請を頂いたので、富田寺、保壽寺、西光院、本誓寺の四カ寺が、法要に出頭致しました。

第六教区

○第六教区 住職会

五月十七日、霧島観光ホテルにおいて第六教区住職会を開催した。

当日は本山賦課金、支所費、相国会費等の集金や支所長より二、三の報告がされ、又各寺の現状などの話し合いを行った。この住職会は年に一度のため、その後の和やかな懇親会では一層の親睦を深めた。

県八代市立博物館で開催されていた「円山応挙―京都相国寺と金閣・銀閣の名宝展ふたたび―」を見学した。

八代市に一番近い相国寺派の末寺といっても、車で一時間半以上離れているので、小型バスでのこの旅行は有難い計画であった。

管長猊下の有馬家と八代城主松井家との昔からのご縁で、今回が二回目の特別展であったようですが、九州の小都市での相国寺名宝展に参加者一同とても感銘深いものがあつた。

○光明寺閑栖法話

五月二十七日、松本憲融師(布教師・鹿児島市光明寺閑栖)が崇福寺(福岡市博多区)で開催された「円通会一日受戒」に事務局から拝請を受け、法話を行った。



平成二十九年度(雨安居)
相国僧堂 在錫者名簿

京都(相国) 慈雲院徒
岐阜(妙心) 萬福寺徒

中山真周
興山元卓

京都(相国) 大通院徒
鈴木承圓

教化活動委員会活動報告

教化活動委員会委員長 佐分宗順

教化活動委員会研修会「相国寺研究」は昨年の相国寺史編纂室中井裕子研究員による室町時代の相国寺領荘園をテーマにした二回の研修会に続き、本年は藤田和敏研究員による研修会を予定通り四回にわたって以下の通りおこないました。

二〇一七年

第一回 二月二十八日(火) 「江戸時代前期における門派の形成―西笑承兌と常徳派」

第二回 三月 七日(火) 「安土桃山期～江戸時代中期における大智派と光源院・慈照寺」

第三回 三月 十四日(火) 「江戸時代中期における相国寺山内の動向」

第四回 三月 十六日(木) 「江戸時代後期における白隠禪の浸透と門派の衰退」

いずれも承天閣美術館二階講堂に於いて、午後一時三十分～三時 講義

午後三時～三時三十分 質疑応答

『講義録』は九月刊行の予定です。

【次期研修会予告】

今後の研修会については、相国寺研究として以下の講座を予定しています。

I

テーマと演題 第一回 「相国寺文化圏の誕生―足利義満が生きた時代」

第二回 「禅の風雅―中世相国寺が育んだ文化」

日程 未定 追ってご案内いたします。

講師 高橋範子氏

◆プロフィール

一九五七年、大阪府生まれ。帝塚山学院大学文学部美学美術史学科卒業。日本美術史、中世禅宗文化。

財団法人正木美術館学芸部学芸員、主席学芸員、副館長を経て、二〇二二―二〇二四年に館長を務める。

著書 『水墨画にあそぶ―禅僧たちの風雅』（歴史文化ライブラリー一九七・吉川弘文館二〇〇五）。共著に『禅と天神』（吉川弘文館、二〇〇〇）、『講座日本美術史』第四卷（東京大学出版会、二〇〇五）、『水墨画・墨蹟の魅力』（吉川弘文館、二〇〇八）など。

II

テーマと演題 『慈照寺と無双真古流』

日程 二〇一七年 第一回 九月 十四日(木) 「東山文化と諸芸道」

第二回 十月 十二日(木) 「花道文化の発展」

第三回 十一月 九日(木) 「江戸時代の花道」

第四回 十二月十四日(木) 「無双真古流の位置」

二〇一八年 第五回 一月 十八日(木) 「無双真古流の意義」

講師 井上 治氏

◆プロフィール

京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。京都大学、大阪産業大学非常勤講師等を経て京都造形芸術大学芸術学部准教授。芸術哲学、伝統文化論。華道嵯峨御流正教授。

著書 『花道の思想』（思文閣出版、二〇一六年）、『歌・花・香と茶道』（淡文社、二〇一七年）

いずれも、講義は午後一時三十分～三時、その後質疑応答

新寺務棟二階 講堂に於いて開催の予定

◎このほか現代問題を扱った講座も検討いたしております。

受講希望者は、氏名、宗派または職業、住所、電話、メールアドレス明記の上、相国寺教化活動委員会までお申し込みください。相国寺ホームページからもお申し込み込みが可能です。尚、都合によりやむを得ず日程を変更することがあります。

これまでに行った研修会の講義録をご希望の方は、一冊につき手数料一千元を添え、下記の相国寺派宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。既刊の『講義録』リストは、相国寺派ホームページの「活動」・「書籍案内」をご覧ください。

申込先

相国寺教化活動委員会

〒六〇二一〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話〇七五一一三二一〇三〇一

FAX〇七五一一二二三五九一

ホームページ(<http://www.shokokuji.jp>)

好評発売中！

相国寺教化活動委員会 監修

『国家を超える宗教』

東方出版

本編三二〇ページ

定価二、二〇〇円(税別)



京都仏教会 編

『古都税の証言』

—京都の拝観寺院をめぐる問題—

丸善出版

本編二二六ページ

定価一、八〇〇円(税別)



相国寺史編纂室だより — 相国寺創建の様子を伝える史料 —

相国寺史編纂室では、現在、『相国寺史』史料編第一巻「中世二」の校正を行っています。史料集は誤字等の間違いが出やすいため、相国寺史編纂委員の先生方と編纂室研究員・アルバイトが複数人で校正用紙に目を通し、慎重に作業を進めています。校正が終了した後、いよいよ発刊となります。もうしばらくお待ちください。

この巻には、相国寺勧請開山である夢窓疎石が生まれた鎌倉時代末期から応仁の乱までの時期の史料を収録します。今回は、そのなかから、相国寺創建に関する史料を紹介しましょう。

相国寺の創建に深く関わった義堂周信の日記『空華日用工夫略集』によると、足利義満が永徳二年(二三八二)九月二十九日に「新しい寺を建立したい」と春屋妙葩と義堂に持ちかけます。義満は十分な資財がないため小さな寺を建てるつもりであったのですが、義堂が「大伽藍を建てたいという願いが強かったら必ず叶います」と勧め、五山寺院に匹敵する大伽藍を建てることになりました。義満の発案から一カ月後である十月二十九日には、仏殿と法堂の上棟式が行われてい

ます。なぜ、これほど早く工事が進んだのでしょうか。

当時の有力な公卿である一条経嗣の日記『荒暦』同月三十日条によると、法堂は等持院法堂を移築したと書かれています。既存の建物を利用したため、費用をそれほどかけずに素早く造ることができたのです。

相国寺が建てられた場所は將軍が住んでいる室町第(花の御所)の隣で、京都の中心地でした。室町第の近くには貴賤を問わず多くの人が住んでいたのですが、それらの人々は強制的に立ち退かされました。『荒暦』同年十一月二日条には、「このようなことは平清盛による福原遷都以来のことだ」と、約二百年前の事件を引き合いに出すほどの大騒動であったことを伝えています。

その後も義満は、伊予国の河野氏に材木を進上させたり(『予章記』)、室町幕府守護の赤松氏や佐々木氏に普請役を担当させたり(『空華日用工夫略集』永徳四年正月十八日・二月二十一日条)して、相国寺の伽藍の整備を進めました。室町幕府が安定化し、將軍義満が強い権力を持つようになったために、相国寺は立派な寺になったのです。

創業明暦年間



七味家

〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221
TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352

ゴヨウハシチミヤ

0120-540738

9:00~18:00 (冬季は9:00~17:00)
<http://www.shichimiya.co.jp/>

夢のある空間づくりのパートナー



TOTAL DISPLAY
FUSHIMI KOHGEI
株式会社 伏見工芸

[本社] 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地
TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465

[宇治工場] 〒611-0041 京都府宇治市横島町吹前15番地
TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254
e-mail: fushimi@d1.dion.ne.jp

税理士 奥谷 昌雄
税理士 内藤 誠

〒602-8026
京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地
TEL (075) 256-2551 FAX (075) 255-7461

office やまと

〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル
電話 (075) 462-1385
FAX (075) 464-6120



寺社の電気、空調、防犯、防災設備

有限会社 土橋電気設備

〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4
まちゃまちゃ 105号
TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332

こころをつたえる

和文具 和雑貨

株式会社 表現社

〒602-0861
京都市上京区新烏丸通り荒神口南入る
TEL: 075-222-1345 / FAX: 075-222-1354
<http://www.hyogensha.net/>

お茶会・式典・作品展 など
イベントのお手伝いは弊社へ



イベント運営・レンタルの京老舗
有限会社 テラヲ貸物店

〒602-0029 京都市上京区室町通上立売上る室町頭町279番地の5
TEL 075-414-1464 FAX 075-414-1474
E-mail office@terao-rental.com
URL <http://www.terao-rental.com>

大田明蘭 写真事務所

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地
電話(代表) (075) 462-3915
ファクシミリ (075) 462-3616
URL <http://www.rinzai.jp>
E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp

大本山相国寺御用達

社寺建築 (株)北村誠工務店

〒603-8225
京都市北区紫野南船岡東町45
電話京都 (075) 441-0563
FAX京都 (075) 441-0571

〒604-8356
京都市中京区大宮通錦上ル
電話〇七五〇八二二一三三八七二



大本山相国寺御用達

庭園 設計・施工

樋口造園 (株)

〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル
電話 (075) 462-1385
FAX (075) 464-6120

大本山相国寺御用達

御法衣・仏具

(株)後藤利法衣店

〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル
電話 (075) 221-4587
FAX (075) 223-0094
フリーダイヤル (0120) 014587

大本山相国寺御用達

精進料理

矢尾 治

〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358
電話 (075) 841-2144
FAX (075) 841-2110
<http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp>

文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達

社寺建築 設計・施工
数寄屋建築



澤甚株式会社 澤野工務店

本社
〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入
TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775

山科事務所・工房
〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)

貴重な御法衣の御用は
大本山相国寺御用達

後藤新助法衣仏具店

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地
電話(代表) (075) 462-3915
ファクシミリ (075) 462-3616
URL <http://www.rinzai.jp>
E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp

大本山相国寺御用達

籾安田念珠店

〒604-8072
京都市中京区寺町六角角
TEL (075) 221-3735 FAX (075) 221-3730
<http://www.yasuda-nenju.com/>

なくてはならない印刷会社を目指して—



ヨシダ印刷株式会社 関西支店

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5-8-3 新大阪サンアールビル北館10階
TEL.06-6305-7888 / FAX.06-6305-7300

[金沢本社] 〒921-8546 石川県金沢市御影町19-1 TEL.076-241-2141 (代)
[東京本社] 〒130-0014 東京都墨田区亀沢3-20-14 TEL.03-3626-1301 (代)
[営業所・工場] 富山・金沢本社・江東潮見

URL <http://www.yoshida-p.jp/>



情報セキュリティマネジメントシステム
ISO27001:2013



日本水なし印刷協会
認可工場 (印刷安全対策)



標準印刷認証
ヨシダ印刷株式会社
金沢本社工場
江東潮見工場



世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。

ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpkyoto.com

大本山相国寺御用達
京仏具・仏壇

株式会社 **佛 光 堂**

〒600-8033
京都市下京区寺町通仏光寺下る
(四条寺町、南へ200M、西側)
TEL(075) 351-4092 FAX(075) 351-7231



温故知新を織る……

株式会社 **龍村美術織物**

URL: <http://www.tatsumura.co.jp/>

関西店 〒604-8101 京都市中京区柳馬場通御池下る柳八幡町65番地
京都朝日ビル2階
TEL (075) 211-5002 FAX (075) 211-5305
関東店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-1
八重洲中央ビル5階
TEL (03) 3562-1212 FAX (03) 3562-1230

大本山相国寺御用達

京都市指定

有限会社 **丸水設備工業**

- 上下水道衛生設備
- ボーリング井戸
- 消火栓設備
- 庭園池の濾過設備
- お墓の雨水処理
- 設計施工

〒603-8354 京都市北区等持院西町32
TEL (075) 462-8888(代) FAX (075) 462-8998



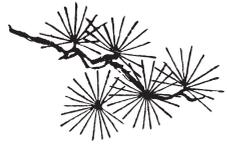
大本山相国寺御用達
寺社庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理



長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達
香老舗 松榮堂

京都本社 / 京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595
東京支店 / 東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969
札幌支店 / 札幌市中央区南 8 条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店 京都駅 薫々 嵐山香郷 大阪本町店 銀座店 人形町店 青山香房 札幌店

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

A^{DACHI} 足立電気工業株式会社

〒601-8045

京都市南区東九条西明田町34-21
TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767
E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…

京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行
 京都銀行

JTB

感動のそばに、いつも。

(株)JTB西日本 団体旅行京都支店

〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町167 AYA 四条烏丸ビル2F

TEL.075(284)0173 FAX.075(284)0153

担当：酒井 健次 (営業時間 9:30~17:30 / 土・日・祝日休業)

大本山相国寺御用達

京表具

絵画・墨蹟・織物・修理・一般表具一式
宗紋襖紙・御殿引手販売元

こう えつ あん
浩悦庵

古文化財保存修理研究所 有限会社 矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通丸太町上る今薬屋町 318 番地
TEL(075)254-6021 (代)・FAX(075)254-6022
東京営業所 TEL (042)442-0177 E-mail:tokyo@koetsuan.com

<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com

大切な資産を、ご家族へ確実につなぐために。
生前贈与や万一の補えが簡単にできる三菱UFJ信託銀行の商品を
どうぞご利用ください。

見本保証・管理手数料無料

大切な家族を守る相続。
「選んで満足」のお声が増えています。



贈与財産管理
「おくるしあわせ」



相続財産管理
「まごよるこぶ」



相続財産管理
「ずっと安心」

三菱UFJ信託銀行 東京支店 信託部 信託課
TEL.075-211-7168 東京都中央区新富1-1-1 三菱UFJ信託銀行ビル10F

抹茶

全国並びに関西茶品評会 第一位
自園茶農林水産大臣賞30回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶 萬年乃翠

御薄茶 常光



大本山相国寺御用達

宇治久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合わせ(0774)200909
●西洞院店 茶房「元庵」水曜休祝営業
●京都市中京区西洞院通御池下ル
電話(075)2230909
●ジエリアル京都伊勢丹店地下一階
●京都高島屋店地下一階和菓子売場
【お取り扱い】全国有名茶店・茶道具店
www.marukyu-koyamaen.co.jp

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

大本山 相国寺御用達

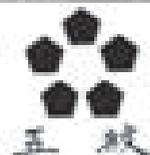
橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話(075)221-0934番 振替京都01090-4-3476

相国寺御用達 北山金閣寺御用達 東山銀閣寺御用達



URL <http://matsuihara.com>



享保十一年創業 清酒「五紋神威」醸造元

松井酒造株式会社

京都府京都市西京区高田町1-1-6 電話 075-(771) 0246



秋田 白川 呉橋軒
静かな佇まいに
舟の音のほろり響く

鮎割烹
たつみぼし

〒605-0924

京都市東山区八幡新地清水町371番地4

電話 (075) 331-1184

営業時間 17:30~22:30(LO.22:00) 定休日:水曜日

相国寺
東京別院
施工

www.mizunuma-inc.co.jp

水澤工務店 東京都江東区北堀5丁目番地1号 TEL.03-3641-7111



皆さまのお役に立てる、

コインパーキング。

着実に、一步一步。

キョウテク株式会社

本社

TEL **075-415-0100** FAX 075-415-0089

〒603-8143 京都市北区小山上総町10番地1 キョウテク北大路ビル2F

● 編集後記 ●

◇暑中お見舞い申し上げます。相国会会員の皆様をはじめ本派各ご寺院、関係各位にはご健勝のことと拝察申し上げます。『円明』最新刊の第108号が出来上がりましたので、ご高覧ください。

◇今回は写真付きの「仏道定款」をお示しいただいた小林玄徳老大師はじめ、タイでの仏教生活体験記、相国寺院園連載記事などをご寄稿頂きました諸氏に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

◇本年は、わが臨済宗の江戸時代中期の高僧、白隠慧鶴禅師の250年遠諱の一年として、各所にて法要やシンポジウム、特別展等が開催されております。本誌にもシンポジウムで発表された本派住職、記念撰心会に参加された檀信徒からご寄稿をいただきました。白隠の教えは「四弘誓願」の実践であり、人として生きるべき基本だと説いています。

◇世界の各地は、テロによる悲惨な事件、あるいは核兵器の配備とその実験による脅威にさらされており、これらは一向に無くなる気配がありません。宗教や考え方の違いなどによって生じた人間同士のあらゆる摩擦を前に、仏教や禅はどう向き合っていくべきなのか、事件のたびに考えさせられます。

◇今夏も盂蘭盆会が営まれる時期となりました。新暦で7月にすでに法要を終える地方もございいますが、この法会は釈迦十大弟子の一人、目連が供物を供え衆僧の力にすぎり、餓鬼道に落ちた母を救ったという「盂蘭盆経」の教えに基づくものとされます。のちに先祖の霊を供養する行事となり、江戸時代には今日のような形式になりました。場所により様々な供え方がありますが、京都では「おけそく（お華東・お華足）」と呼ぶお餅や団子をお仏壇に供え、8月13日に精霊をお迎えし、16日に送り火によって彼岸へ送るのが一般的なならわしとされています。御先祖様の一年ぶりのお里帰りをご家族そろって気持ち良くお迎えしたいものです。残暑厳しい折、どうぞ御自愛ください。

(矢野謙堂 記)

【お詫びと訂正】

『円明』大本山相国寺107号記載分に誤りがありました。下記のように訂正してお詫びいたします。
84ページ 第五教区だより
(誤)興聖寺(宇治市・曹洞宗) → (正)興聖寺(京都市上京区・臨済宗単立)

えん みょう 平成29年夏号(第108号)
円明 平成29年8月1日発行(年2回)

編集/相国寺派宗務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591
URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN



『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

人と自然をつなぐ、伝統と革新をつなぐ。

想いをかたちに 未来へつなぐ

TAKENAKA

竹中大工道具館(兵庫県神戸市)
設計施工:竹中工務店

株式会社 竹中工務店

DNP

歴史を未来につなぐ技術。

創始から、この心は変わって来ない。川越 社長の技術者魂が、今も
あふれる。のびのびと成長する。今、DNPは、自然の恵みを受け、

事業の発展に貢献します。

〒100-8362 東京都千代田区千代田1-1-1

相国寺 秋の特別拝観

京都今出川 鳴き龍の寺

平成29年9月25日(月)～12月15日(金)

※10月18日(水)～21日(土)は、開山忌法要のため拝観を休止いたします。
※10月3日(火)、4日(水)、5日(木)、12月8日(金)は法要・行事のため
拝観時間に一部変更があります。

拝観時間：午前10時～午後4時

拝観場所：

法堂^{はつどう}

方丈^{ほうじょう}

開山堂^{かいさんどう}

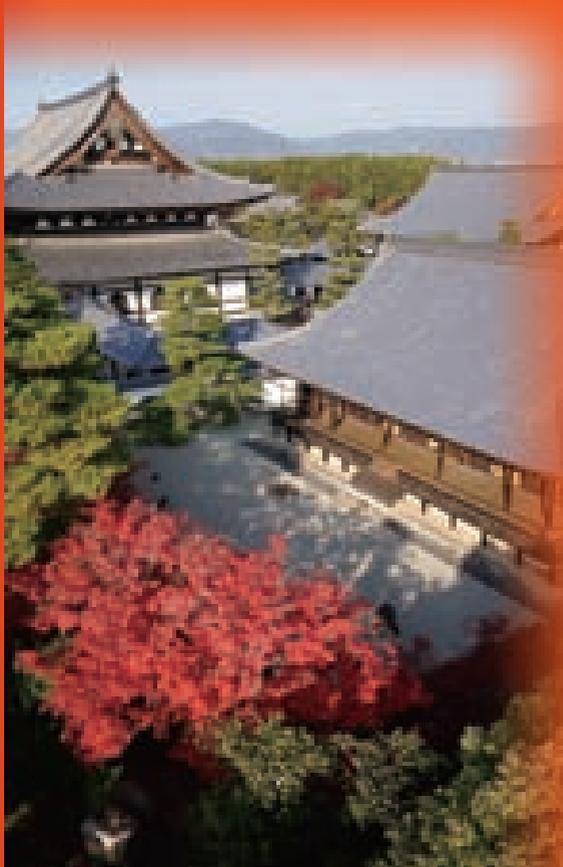
拝観料：一般・大学生 800円 / 65才以上・中高生 700円

※団体割引有り

※行事・法要のため予告なく拝観休止または拝観場所・
拝観時間を変更することがあります。



法堂内部「蟠龍図」



紅葉と相国寺の伽藍

承天閣だより

Jotenkaku Museum

春季特別展覧会 熊本地震復興祈念

「円山応挙——京都相国寺と

金閣・銀閣の名宝展ふたたび——」展開催

於 熊本県 八代市立博物館未来の森ミュージアム

平成二十九年四月二十一日～六月四日まで、熊本県の八代市立博物館
未来の森ミュージアムに於いて、熊本地震復興祈念「円山応挙——京都相

国寺と金閣・銀閣の名宝展ふたたび——」展
が開催された。円山応挙による「牡丹孔雀
図」など国指定重要文化財の作品群に、門
下の呉春などを加えた、作品二十六点が
並んだ。

本展は、昨年開催日の前夜に発生した
熊本地震で中止となり、一年を経ての開催。

開会式には管長猥下がテープカットに
御出杖された。また、承天閣美術館に於い
て募っていた、熊本地震復興寄付金が管
長猥下より八代市市長に贈呈された。



開会式テープカット



管長猥下より八代市長へ義援金寄付



管長、住職方と檀信徒による記念撮影



祝語を唱える有馬管長猥下



祝辞を述べる佐分宗務総長



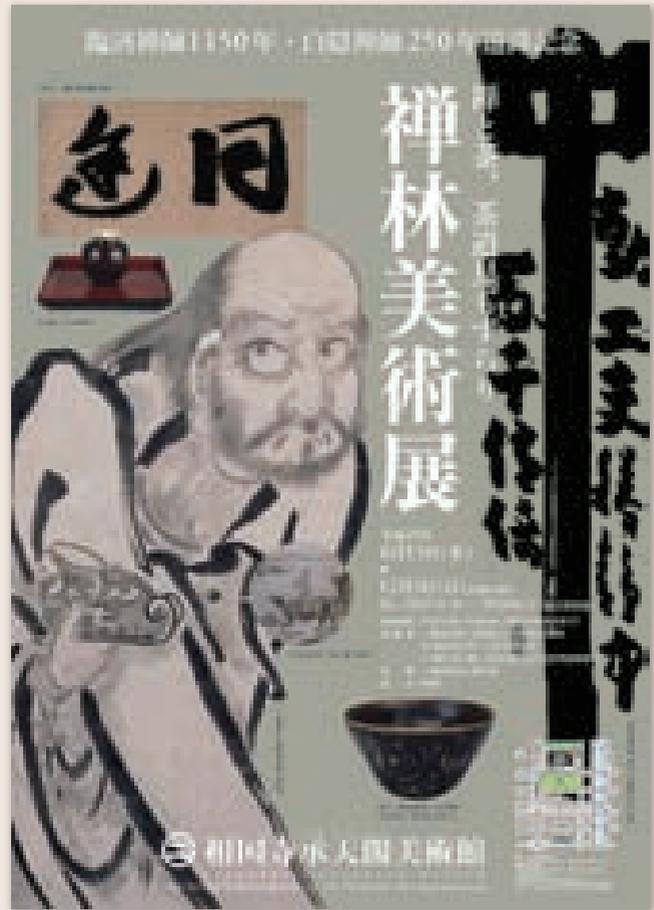
新築落慶された本堂

撮影◎水江修司氏

第三教区 少林寺 堂宇落慶法要

平成二十九年五月二十三日

(教区だより80ページなどを参照)



臨濟禅師一一五〇年・白隠禅師二五〇年遠諱記念 「禅林美術展」開催

会記 平成二十九年六月十五日〜十二月三日
会期中無休(但し九月二十七日〜三十日は展示替休館)

この度臨濟禅師没後一一五〇年と、白隠禅師没後二五〇年を記念し、中国宋・元、日本中近世の墨蹟、祖師図等を一堂に展観いたします。

また禅と共に日本の文化芸術、精神に大きく関わった茶道は、現在も日常生活に深く溶け込んでおります。本展観では茶碗や茶入、香合等の茶道具も合わせて展示いたします。

禅文化にふれる、またとない機会でございます。ぜひ御鑑賞下さい。

相国寺承天閣美術館事務局

とわ
永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ

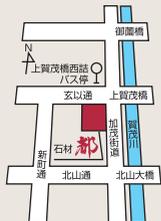


代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間/AM8:30~PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本 社：〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 ヨクソ ヨイシ
(上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)
工 場：京都市北区上賀茂神山 389 番 24 ヨクソ ヨイシ
(洛北病院バス停前) 電話(075)702-2440
夜 間：京都市左京区岩倉南池田町 117 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた

照顧脚下
(徹心録)

脚下を照顧せよ

「看脚下(脚下を看よ)」
と同意。

自分の足下をよく見よ。
常に振り返り

おのれの心を照らし顧みよ。

相国寺開山堂法要時にならぶ僧侶の「出頭香」
撮影◎教学部